

# 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

## １．一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d：異形棒鋼の呼び名に用いた数値      D：部材の成      R：直径  
@：間隔      r：半径      C：中心線      b：部材間の内法距離      h：部材間の内法高さ  
ST：あばら筋      HOOP：帯筋      S. HOOP：補強帯筋      φ：直径

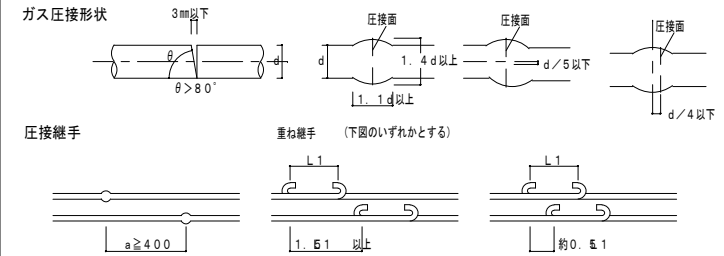
## ２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げ形状			
折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（*4d以上）	8d以上（*4d以上）
鉄筋は、SD295A、SD295B、SD345を使用する 折曲げ内法寸法Rは、D16以下は、3d以上、D19以上は4d以上 *片持スラブ上端筋の先端			

(2) 鉄筋中間部の折曲げ形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下				
図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295、SD345	D16以下	3d以上
	上記以外の鉄筋	SD295、SD345	D19～D25	4d以上
			D16以下	6d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ						
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 ( $\text{N}/\text{mm}^2$ )	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ ( $L_1$ )	
		一般 ( $L_2$ )	下端筋 ( $L_3$ )			
				小梁	スラブ	
SD295 SD345	21 22.5 24	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 150mm 以上	40d または 30d フックつき	40d または 30d フックつき
	18	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき	45d または 35d フックつき
コンクリートは普通 $f_c = 18 \text{ N}/\text{mm}^2$ 以上 $24 \text{ N}/\text{mm}^2$ 以下、軽量 $f_c = 18 \text{ N}/\text{mm}^2$ 以上 $22.5 \text{ N}/\text{mm}^2$ 以下						

- 継手
- 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない
  - 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
  - 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする



## (4) かぶり厚さ

構造部分	設計かぶり厚さ(mm)	最小かぶり厚さ(mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ (非耐力壁)	30 <sup>(1)</sup>	20 <sup>(1)</sup>
耐力壁・壁梁・小梁・片持梁	40 <sup>(1)</sup>	30 <sup>(1)</sup>
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎立ち上がり部分	50	40
地中梁		
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	70	60

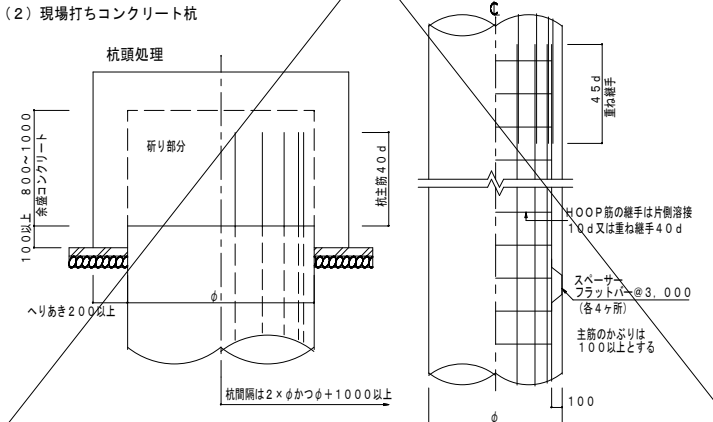
〔注〕 (1) 耐久性上有効な仕上げのない場合、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。  
又、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
(2) 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。(8-(1)のa参照)

- (5) 鉄筋のあき
- 異形鉄筋では呼び名に用いた数値の1.5d以上
  - 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上
- (6) 鉄筋のフック (a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)
- 壁長が1m以下の壁横筋の末端
  - あばら筋、帯筋
  - 煙突の鉄筋
  - 柱、梁 (基礎梁を除く) の出すみ部分の鉄筋 (右図参照)
  - 単純梁の下端筋
  - その他、本配筋標準に記載する箇所
- 印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要
- 

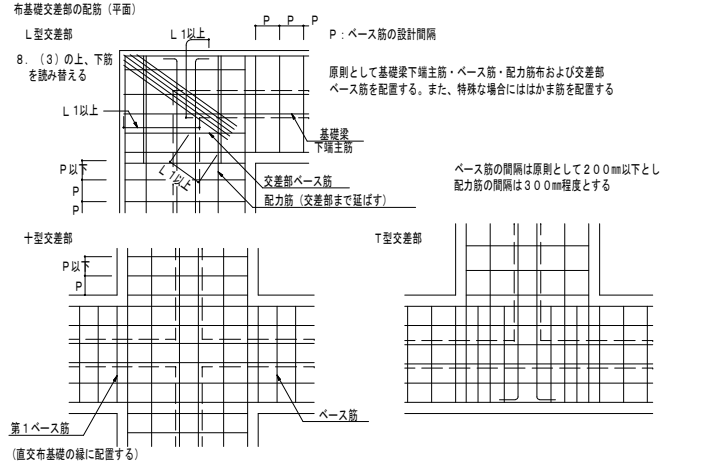
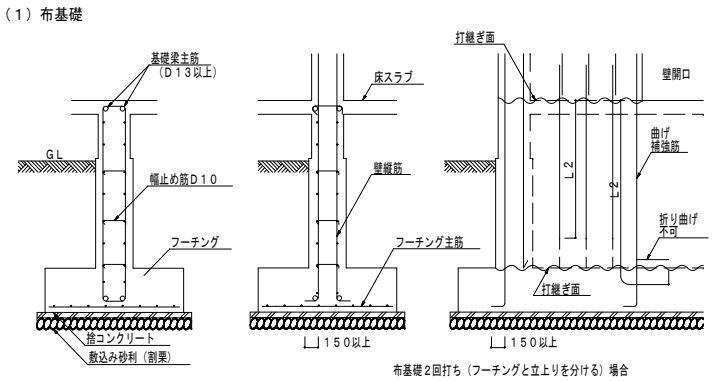
## ３．杭

(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う	
所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合
杭径 300φ、350φ、400φ	450φ、500φ、600φ
補強筋 6-D13、8-D13	10-D13、8-D16、10-D16
HOOP	D10-@150



## ４．基礎



8. (3) の上、下筋を読み替える

原則として基礎梁下端主筋・ベース筋・配筋布および交差部ベース筋を配置する。また、特殊な場合にははかま筋を配置する

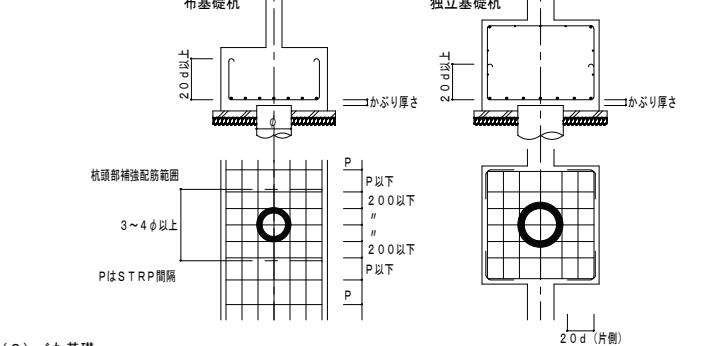
ベース筋の間隔は原則として200mm以下とし配筋筋の間隔は300mm程度とする

十型交差部

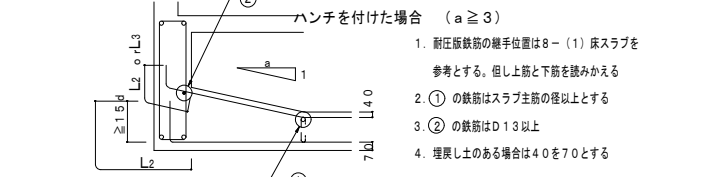
T型交差部

第1ベース筋 (直交布基礎の縁に配置する)

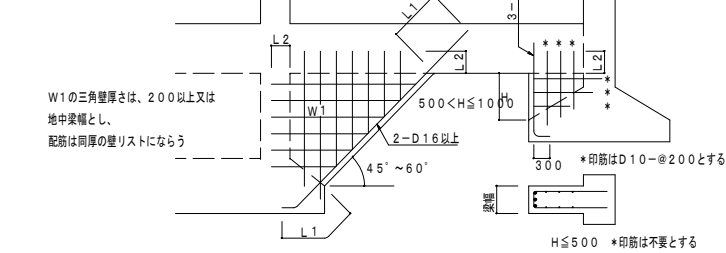
## (2) 杭基礎



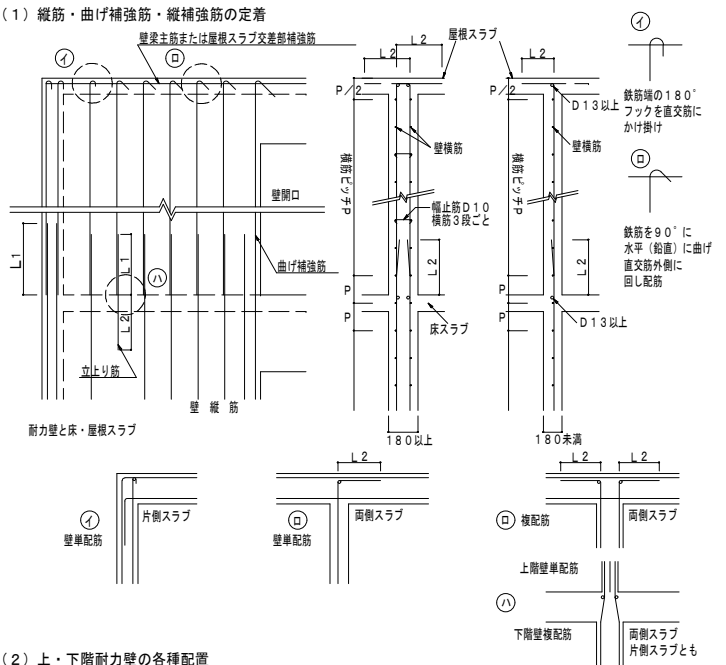
## (3) ベタ基礎



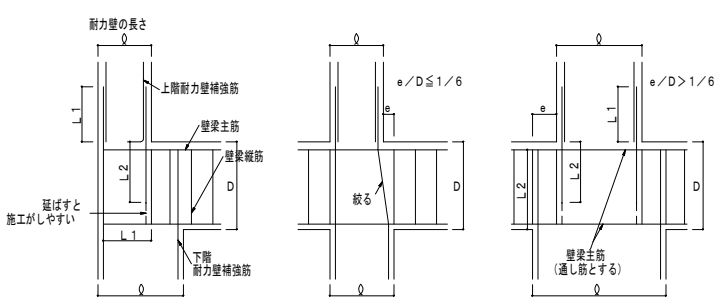
## (4) 基礎接合部の補強



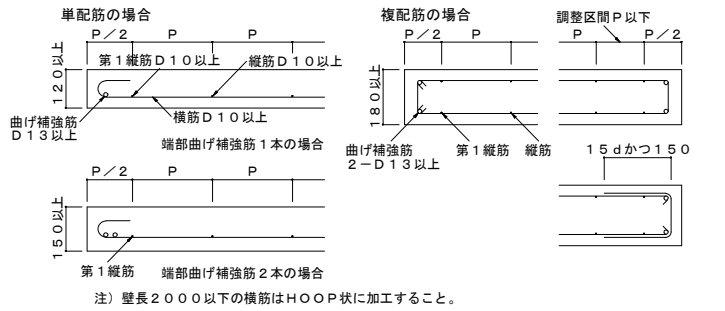
## ５．耐力壁



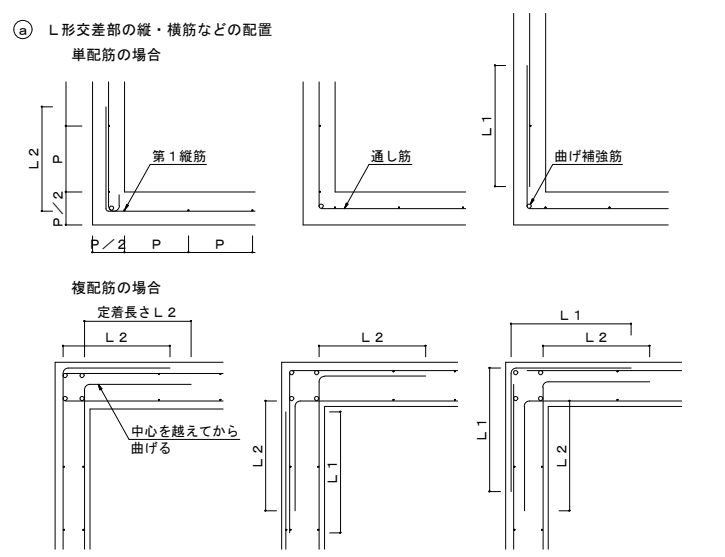
## (2) 上・下階耐力壁の各種配置



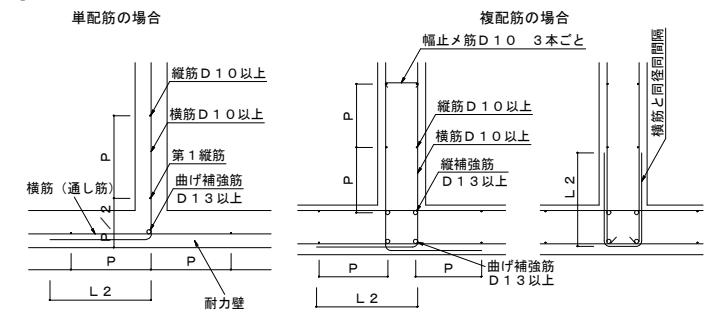
## (3) 耐力壁の縦・横筋の配置



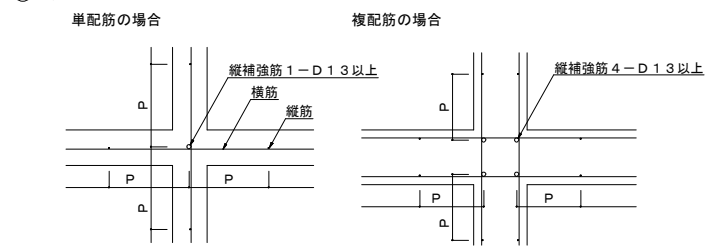
## (4) 耐力壁が交差する場合 (平面)



## (b) T形交差部の縦・横筋の配置



## (c) 十形交差部の縦・横筋の配置



## ６．使用可能な鉄筋の最大径 (標準)

部位	耐力壁	壁がりよう小梁	布基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
構造種別	壁式鉄筋コンクリート造					
壁式鉄筋コンクリート造	D22	D22	D25	D16	D16	D16

(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古川 稔

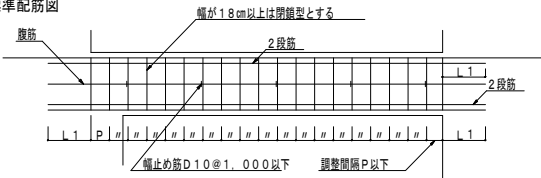
福平小学校プール新築その他本体工事  
壁式鉄筋コンクリート構造  
配筋標準図 (1)  
NO. SCALE  
S-01  
鹿児島市建設局建築部建築課

# 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

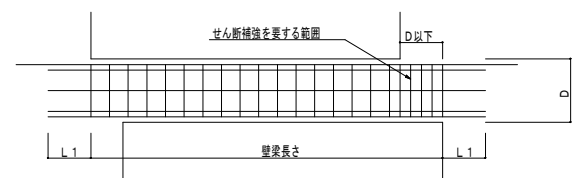
※修正箇所は下線を引くこと  
L=本構造配筋標準図（１）の２～（３）による。

## ７．壁梁、小梁

### （１）壁梁の標準配筋図

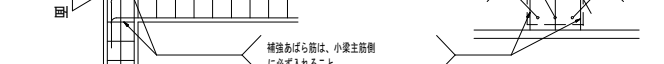
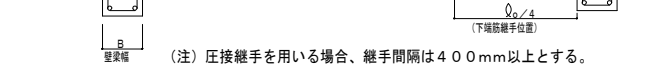
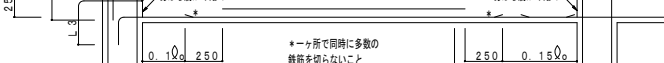
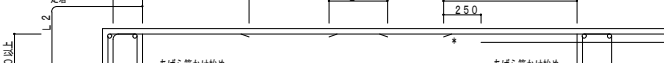
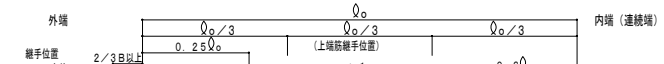
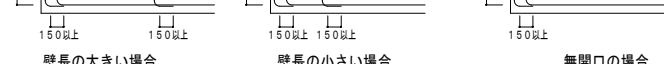
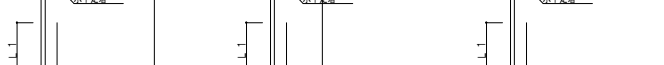
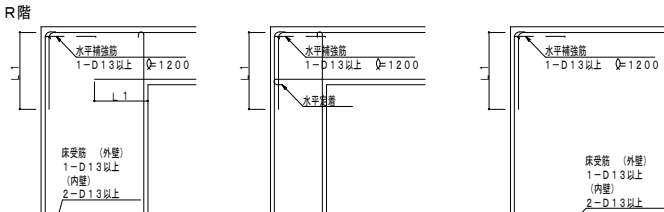
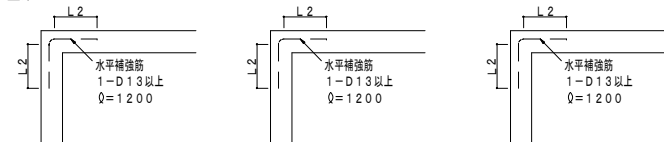


### （２）壁梁の範囲

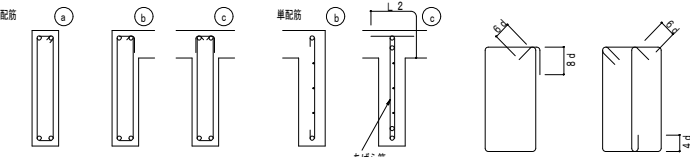


### （３）定着

#### ① 壁梁 出隅部分壁と壁（平面図）



### （４）あばら筋の型



#### （イ）原則として①のフック先曲とする。

片側床版付（L型）梁で②、

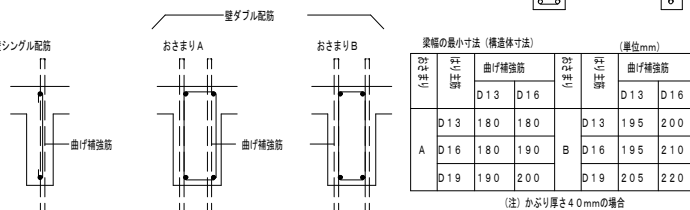
両側床版付（T型）梁で③とすることができ、

（ロ）フックの位置は④にあつては交互、

⑤にあつてはスラブ側とする。

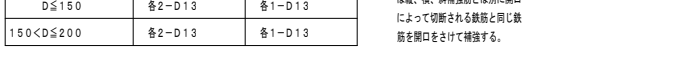
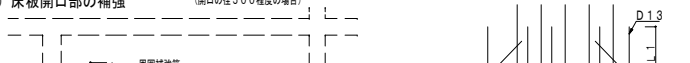
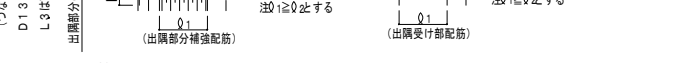
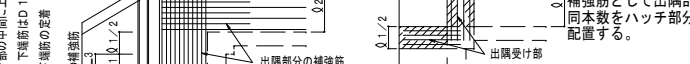
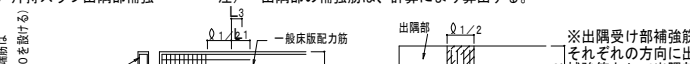
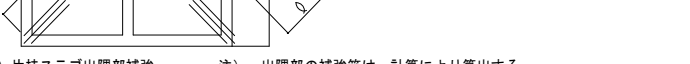
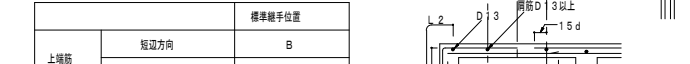
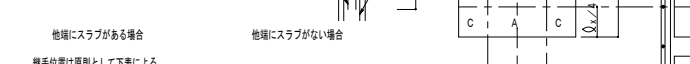
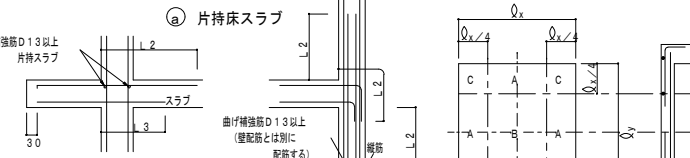
### （５）壁梁と壁のおさまり

壁梁の幅は耐力壁の厚さ以上とする。

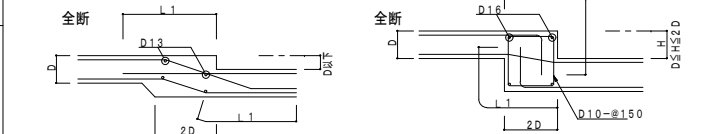


## ８．床板

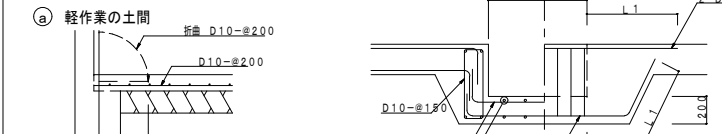
### （１）定着および継手



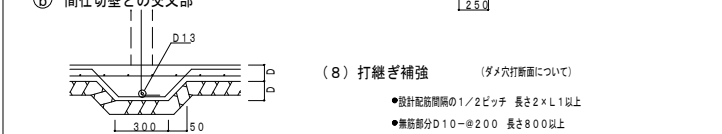
### （５）床板段差



### （６）土間コンクリート



### （７）釜場

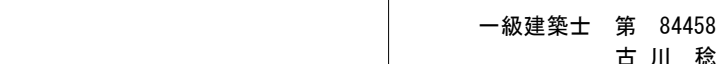
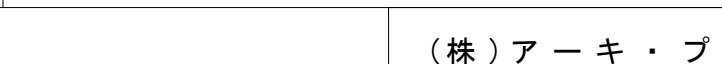
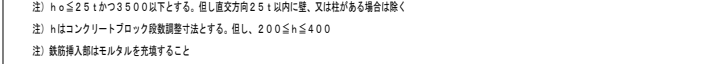
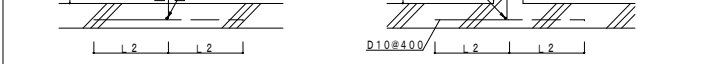
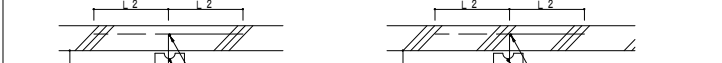
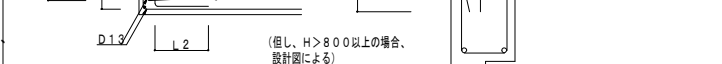
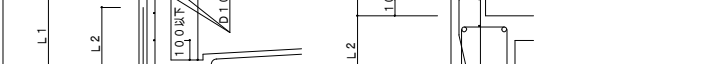
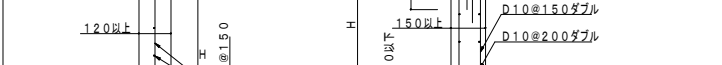
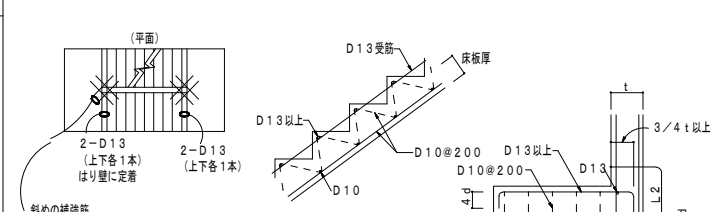


### （８）打継ぎ補強



## ９．階段

### 片持ち階段



## １１．梁貫通孔補強

### （１）既製品

（使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

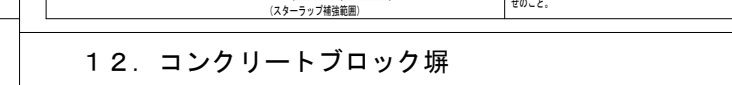
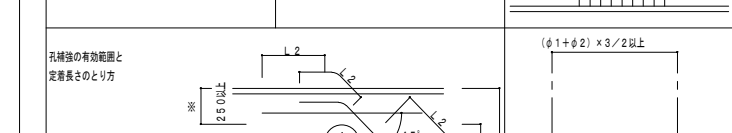
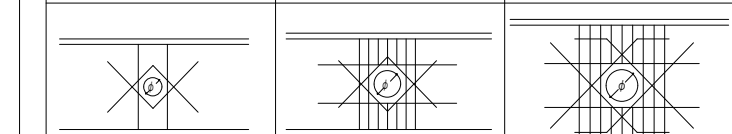
リング型 ロバタイプ 口金輪型 ロプレート型

### （２）鉄筋標準配筋

但しφ≦D/3とする

設置可能範囲 梁端部（スパン Q<sub>o</sub>/10以内かつ2D以内）は避ける

80≦φ≦100 折 筋 2-（2-D13） 縦 筋 ST 2-D13 @100	100<φ≦150 折 筋 2-（2-D13） 縦 筋 ST 2-D13 @50 横 筋 2-（2-D13） 縦 筋 ST 2-D13 @50	150<φ≦250 折 筋 4-（2-D13） 縦 筋 ST 2-D13 @50 横 筋 2-（2-D13） 縦 筋 ST 2-D13 @50
--	---	---



## １２．コンクリートブロック塀

### （１）ブロック塀の高さ・厚さと基礎の構造

a. 塀の高さ（地盤面に高低差のある場合は低い方による）は2.2m以下、

b. 塀の厚さは、塀の高さ2m以下の場合は12cm以上、2mを超える場合は15cm以上、

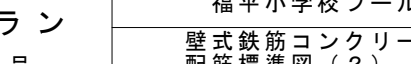
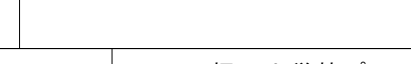
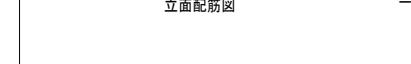
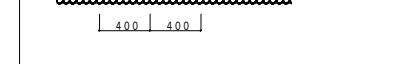
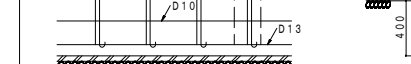
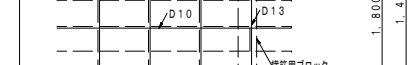
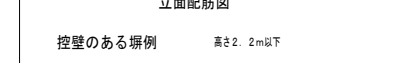
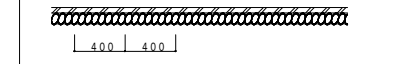
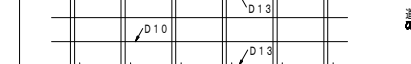
c. 地盤が弱体化の恐れのある砂質土及び軟弱土の場合は、別途検討する。

d. 鉄筋挿入部はモルタルを充填すること。

### 控壁のない塀例

高さ1.2m以下

縦筋は、ブロックの空洞部内で重ね置きをしてはならない。



# 深層混合処理工法特記仕様書（G I コラム-S工法）（参考）

## 1 工法概要

本地業は G I コラム-S工法による地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながら、GIコラム-S工法専用の攪拌翼（共廻り防止翼付きの6枚翼）を装備した攪拌ヘッド（攪拌装置）を用いて、原地盤を機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

## 2 一般事項

- (1) 本工法は「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術性能証明取得工法（GBRC 性能証明 第18-01号改1）とする。  
・一軸圧縮強度の変動係数Vd=25% ・改良体径 φ600～1800（100mmピッチ） ・最大改良長 l=25m
- (2) 本工事は本特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（2018年版 財団法人 日本建築センター 以下指針という）による。

## 3 特記事項

- (1) 本工事は、本工法の施工技術に精通し、G I コラム-S工法委員会に所属する指定施工会社が施工するものとする。
- (2) コラムの径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は、設計 図書による。
- (3) コラムの改良強度 設計基準強度は  $F_c = 1000 \text{ KN/m}^2$ とする。

## 4 施工

- (1) 実施コラム長は、設計図書で示された長さとする。
- (2) 現設計との相違が予想されたり、発生した場合、監督員との協議を行う。

## 5 施工機器

- (1) G I コラム-S工法専用の攪拌翼が装備された攪拌ヘッドを用いること。
- (2) 所定の施工管理項目の計測及び記録ができる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は YBM製の GI-80C 及び GI-130C を標準とし、リーダー付きで自走式であること。
- (4) スラリープラントのスラリーミキサーは所定吐出量を十分供給できる能力を有しており、圧送ポンプはスラリー吐出量を制御できる機能を備えたものとする。

## 6 配合試験及び配合管理

- (1) 使用する固化材は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 改良体施工に先立ち、改良対象土による室内配合試験を実施し、所定の強度を満足する固化材添加量、セメント水比を決定する。
- (3) 配合強度  $X_f$  は、設計基準強度  $F_c$  と変動係数及び採取箇所数により割増係数  $\alpha_t$  を用いて、次式による。

$$X_f = \alpha_t \times F_c$$

割増係数  $\alpha_t$  は合格率を 80% した下表による。（変動係数：25%）

採取箇所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
割増係数	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

- (4) 室内配合強度  
室内配合強度  $X_l$  は次式の値とする。  
$$X_l = X_f / \alpha_{f1}$$

$\alpha_{f1}$  : 現場/室内強度比(=quf/qu<sub>l</sub>)  
quf : 現場平均一軸圧縮強  
qu<sub>l</sub> : 室内配合試験供試体の一軸圧縮強さ

現場室内強度比  $\alpha_{f1}$ は砂質土  $\alpha_{f1}=0.72$ 、粘性土  $\alpha_{f1}=0.68$ とする。  
※本工法の標準的なセメント水比は60～100%である。

## 7 施工管理

施工過程における各項目の管理方法は施工管理装置モニターに表示され、次の通りとする。

- ・コラムの鉛直度 : 傾斜計で管理する。
- ・固化材スラリーの吐出量 : 流量計で計測し記録する。
- ・掘進速度 : 速度計で計測し記録
- ・回転数 : 回転計より計測し記録する。
- ・掘削深度 : 深度計で計測し記録する。
- ・改良体先端層 : トルク計で測定し記録する。

## 8 品質管理

- (1) 調査箇所数（検査手法A）

	設計対象層が天端部		設計対象層が深部
	改良長 L<2 m、かつ、改良対象層が単一層	改良長 L>2 m、または、改良対象層が複数層	
先端部コア	50 コラムに 1 箇所以上、かつ、1 検査対象群に、1 箇所以上	100 コラムに 1 箇所以上、かつ、1 検査対象群に 1 箇所以上	

※頭部管理試験は 1箇所あたり 3個のモールドコア採取を標準とする。

※深度方向管理試験は、設計対象層毎に採取したコアを用いる。

- (2) 可否の判定
- ① 各々の設計対象土層での採取箇所数をN(1箇所当り3個の供試体)とし、一軸圧縮試験より採取箇所毎の平均強度を求める。
- ② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
- ③ 検査手法 Aによる品質検査

可否の判定は設計対象層におけるN箇所（抜き取り箇所）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格とする。

$$X_N \geq X_L = F_c + K_a \times \sigma_d = F_c + K_a \times \{ F_c \times V_d / (1-1.3V_d) \}$$

$X_N$  : N箇所の一軸圧縮強さの平均値

$X_L$  : 合格判定値

$F_c$  : 設計基準強度

$K_a$  : 合格判定係数

$\sigma_d$  : 標準偏差

$V_d$  : 変動係数（25%）

合格判定係数						
採取箇所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数 $K_a$	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

## 9 六価クロム溶出試験

本工事は、施工前に六価クロム溶出試験を行い、その結果が満足することを確認する。  
検液1リットルにつき0.05mg以下であること。

(株)アーキ・プラン 一級建築士 第 84458 号 古川 稔	福平小学校プール新築その他本体工事		
	深層混合処理工法特記仕様書（参考）	NO. SCALE	S-03
	鹿児島市建設局建築部建築課		

構造設計標準仕様

適用は ☐ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称

福平小学校プール新築その他本体工事

建築場所

鹿児島市平川町819番地の3

(2) 工事種別

☐ 新築

☐ 別棟増築

☐ 増改築

☐ 改築

(3) 構造種別

☐ 木造 (W)

☐ 補強コンクリートブロック造 (CB)

☐ 鉄骨造 (S)

☐ 鉄筋コンクリート造 (RC)

☐ 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)

☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)

☐ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)

☐ プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)

☐

(4) 階数

地下

階

地上

1階

塔屋

階

(5) 主要用途

倉庫

(6) 屋上付属物

☐ 広告塔

☐ 高架水槽

ton

☐

☐

☐ 煙突

☐ キュービクル

ton

☐

☐

(7) 増築計画

☐ 有 ( )

☐ 無

(8) 付帯工事

☐ 門塙

☐ 擁壁

☐

☐

☐

(9) 特別な荷重

☐ エレベータ

6人乗 (ロープ式 油圧式)

☐ リフト

ton

☐ ホイスト

ton

☐ 倉庫積載床用

Kg/m<sup>2</sup>

☐ 受水槽

ton

(10) 構造計算ルート

X方向ルート 1 Y方向ルート 1

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度F <sub>c</sub>	=N/mm <sup>2</sup>	cm	備考
捨コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 13.5 <input type="checkbox"/> 18	15		
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 18、 <input type="checkbox"/> 30	15		
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 21、 <input type="checkbox"/> 24	15～18		
柱、梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	<input type="checkbox"/> 21、 <input type="checkbox"/> 24	18		
柱、梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	<input type="checkbox"/> 21、 <input type="checkbox"/> 24	18		
柱、梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	<input type="checkbox"/> 13.5 <input type="checkbox"/> 21	18		

(2) コンクリートブロック (CB)

☐ A種

☐ B種

☐ C種

厚 100、☐ 120、☐ 150、☐ 190

(3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD295	D16以下	梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19～D25	梁	
	<input checked="" type="checkbox"/> SD390			<input type="checkbox"/> ガス圧接継手 (D19以上)
	<input type="checkbox"/>			
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> 特殊継手
	<input type="checkbox"/>			

(4) 鉄骨

	種類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度
鋼材	<input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SN400A <input type="checkbox"/> SN400B	梁	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 1.0F <input type="checkbox"/> 0.9F
	<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> STKR400 <input checked="" type="checkbox"/> STKR490	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 1.0F <input type="checkbox"/> 0.9F
	<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SM490B <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 1.0F <input type="checkbox"/> 0.9F
	<input type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/>	胴縁	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 1.0F <input type="checkbox"/> 0.9F
備考				

(5) ボルト

☐ 高力ボルト ☐ F10T☐ S8T ☐ S10T

認定品 ( ☐ M12☐ M16☐ M20☐ M22☐ M24 )

☐ 中ボルト φ=12 φ=

高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☐ 否

☐ アンカーボルト φ= L= mm ナット (ダブル)

(別添付柱脚リスト参照) φ= L= mm ナット (ダブル)

φ= L= mm ナット (ダブル)

φ= L= mm ナット (ダブル)

☐ 頭付スタッド φ=16 L=80 mm

(6) 屋根、床、壁

☐ ALC板

厚 t=

壁

☐ 折版

形式

屋根

☐ デッキプレート

形式 QL99-50-12

厚 t=1.2

床

☐ キーストンプレート

形式

厚

3. 地盤

(1) 地盤調査

☐ 有 ( ☐ 敷地内 ☐ 近隣 )

☐ ボーリング調査

☐ 平板載荷試験

☐ 水平地盤反力係数の測定

☐ 無

(調査予定 ☐ 有 ☐ 無)

☐

(2) 地盤調査計画

☐ ボーリング調査

☐ 静的貫入試験

☐ 標準貫入試験

☐ 水平地盤反力係数の測定

☐ 土質試験

☐ 物理調査

☐ 平板載荷試験

☐

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

深度

土質

N値

標準貫入試験

10 20 30 40 50

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

火山灰質硬凝じり粘性土

風化シラス

溶結凝灰岩

☐ 調査地盤

KBM 9.34m

☐ 孔内水位

無

4. 地業工事

(1) 直接基礎 ☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎

試験堀 ☐ 有 ☐ 無

深さGL-0.8m、支持層-長期許容支持力度 294.0kN/m<sup>2</sup>

載荷試験 ☐ 有 ☐ 無

(2) 基礎杭 支持層-

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PC	PC ( <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種 )	<input type="checkbox"/> 打ち込み	
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC ( <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種 )	<input type="checkbox"/> 埋込み (セメントミルク工法)	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> STK400	<input type="checkbox"/>	大臣認定第 号
<input type="checkbox"/> PHC節杭		<input type="checkbox"/>	年 月 日
<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭	コンクリートF <sub>c</sub> = スラブ セメント量 Kg/m <sup>3</sup> 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 拡底杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース	拡底杭 日本建築センター認定 第 号

杭仕様 ☐ 施工計画書承認 ☐ 杭施工結果報告書

試験杭 ( ☐ 有 ☐ 無 ) ( ☐ コアホーリング<sup>※</sup> 載荷 ) 1本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN/m <sup>2</sup> 杭の長さ (m))	本数	特記事項
900φ	294.0	6.31	4 F11, F11C基礎
900φ	294.0	4.71	8 F11A, F11B, F11D基礎

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

☐ コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。

☐ セメントは、JIS R5300の普通ボルトランドセメントを標準とする。

☐ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

☐ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

☐ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

☐ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。

また、打ち込み量が150m3をこえる場合は150m3ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。―一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。

☐ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄筋

☐ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。

☐ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋基準図 (1) (2)」によるが添付なき場合は、公共建築工事標準仕様書 (最新版) による。

☐ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

☐ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えときは、200箇所ごと) に1回行い、1回試験は30本以上とする。

外観検査 ☐ 有 ☐ 無、引張試験 ☐ 有 ☐ 無、超音波深傷試験 ☐ 有 ☐ 無

第三者検査機関名  
(南)メタル技研 Tel. 099-264-4910

☐ 柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、☐ H型 (タガ型) ☐ W型 (溶接型)  
☐ S型 (スパイラル型) とする。

☐ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験機関名  
代行業者名  
代行業者名とは、試験、検査に伴なう業務を代行する者をいう。

(3) 型枠

☐ 材料 合板厚 12mmを標準とする。

型枠存置期間

種類 部位 セメントの種類 存置期間の平均気温	せき板		支柱					
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下			
	早強度ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント	早強度ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント	早強度ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント		
コンクリートの材料令 (日)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5N/mm <sup>2</sup>		設計基準強度の50%		設計基準強度の85% 100%			

注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他ののはりね場合も原則として行わない。

注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による、

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

☐ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」

☐ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

☐ 制作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 工作図 ☐ 施工計画書

国土交通大臣指定性能評価機関認定工場 (大臣認定 グレードまたは都登録 ランク)

☐ 材料規格証明書または試験成績書

☐ 鋼材 ☐ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ スタッドボルト

☐ 社内検査表

(3) 工事監理者が行う検査項目

☐ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)

☐ 現寸検査 ☐ 組立・開先検査 ☐ 製品検査

(SN490C材は、サムチェッカーにて材質を確認する事)

☐ 建方検査

(4) 接合部の溶接は下記によること

☐ 東京都アーク溶接」工事監理基準 (建築構造設計指針第12章)

☐ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)

☐ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」

(5) 接合部の検査

☐ 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事管理者	
<input type="checkbox"/> 突合せ溶接部 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	超音波深傷試験	100%	30%	100%	
	外観 (目視) 検査	100%	30%	100%	
	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
※第三者検査機関とは、工事監理者 (設計監理者) が、受入検査を代行させるために自ら指定した検査会社をいう。					
注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。					
注) 社内検査が100%行えない場合は第三者による全数検査を行うこと。					
注) 第三者検査機関の変更は不可とする。					
<input type="checkbox"/> 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライNDER掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。					
<input type="checkbox"/> 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。					
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。					
(6) 防錆塗装					
<input type="checkbox"/> 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JISK5674 1種、2回塗りを標準とする。					
<input type="checkbox"/> 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。					
<input type="checkbox"/> 錆止めは、JISH8641 (溶融亜鉛メッキ: HDZ55) とする。					
<input type="checkbox"/> 溶融亜鉛メッキ部材の高力ボルト摩擦接合面は、りん酸塩処理 (同等品以上) を行うこと。					
(7) 耐火被覆の材料 <input type="checkbox"/>					

7. 設備関係

☐ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。

☐ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。

☐ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

☐ 建築設備については、建築基準法施行令129条の2の3に適合させる事とする。

8. その他

☐ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

☐ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

☐ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

☐ 特記なき場合は、本仕様書に従うものとする。又、本仕様書に明記なき場合は、JASS5及び鉄筋コンクリート配筋指針・公共建築工事標準仕様書 (最新版) による。

☐ 梁貫通孔の補強は、公共建築工事標準仕様書 (最新版) による。又、公共建築工事標準仕様書 (最新版) に該当しない場合は別途検討を行うこと。

(株)アーキ・プラン

一級建築士 第 84458 号

古川 稔

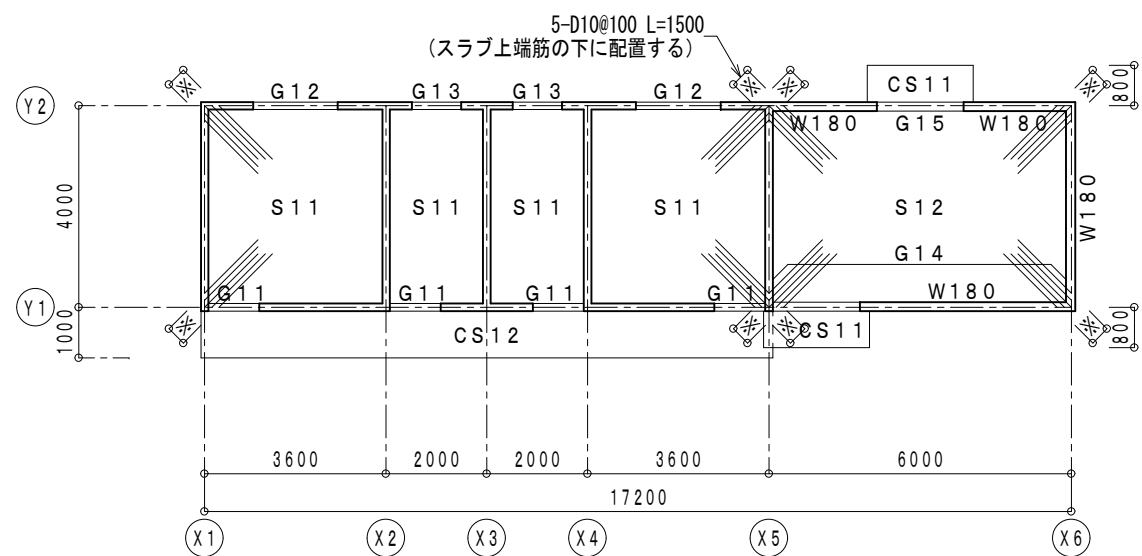
福平小学校プール新築その他本体工事

プール付属屋① 構造設計標準仕様

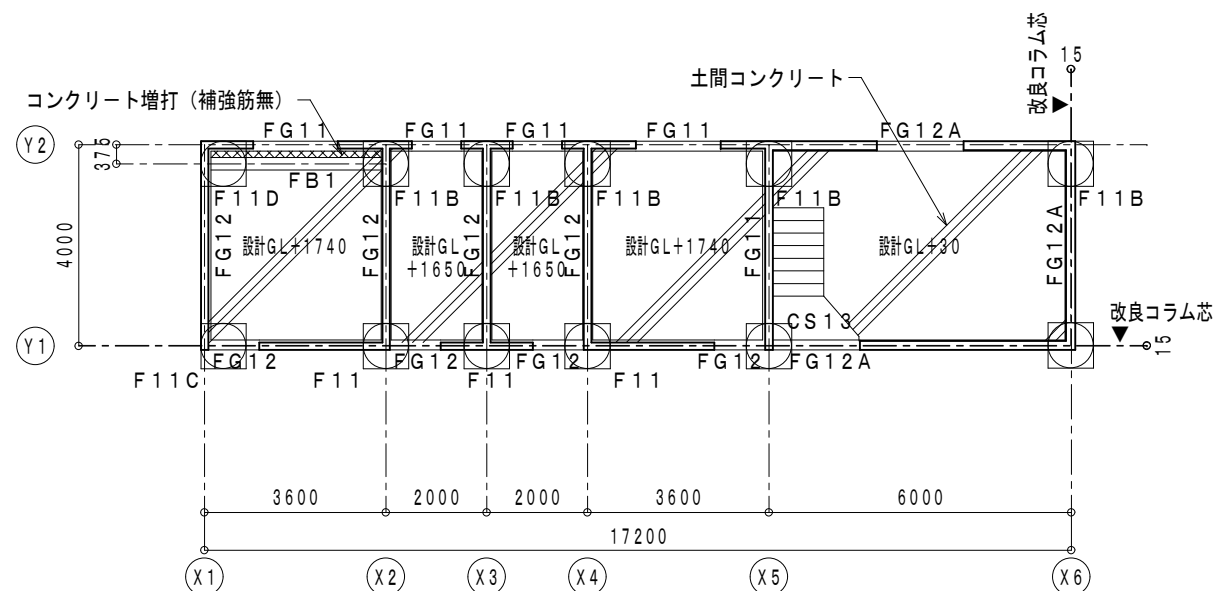
NO. SCALE

S-04

鹿児島市建設局建築部建築課



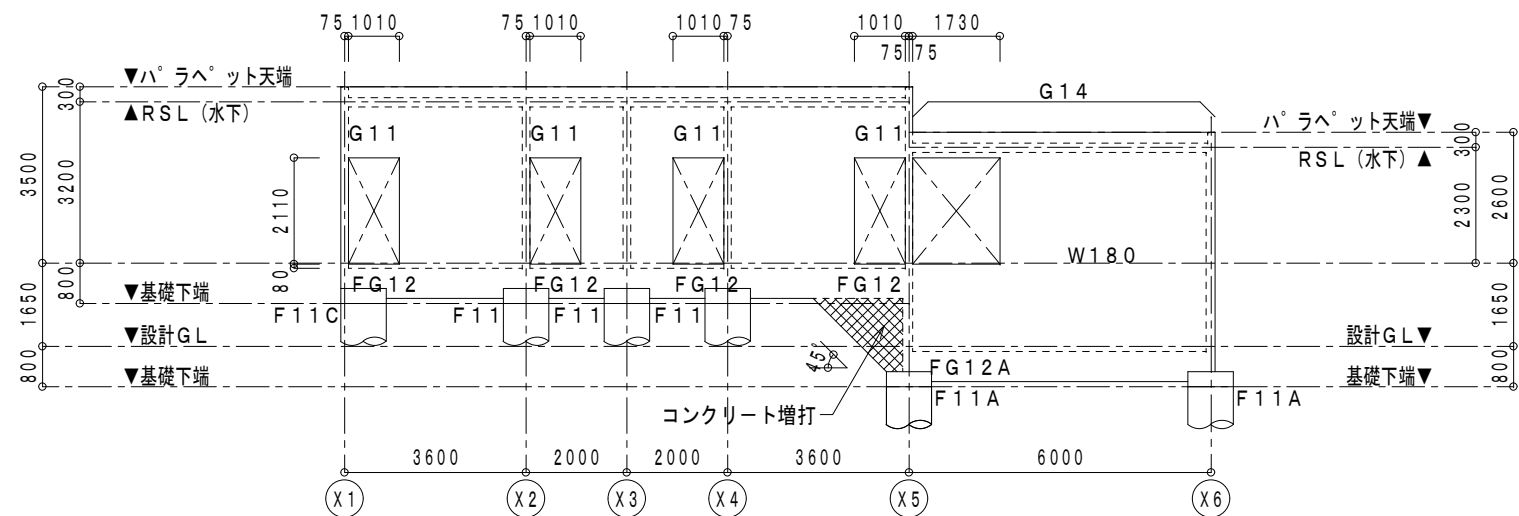
屋根梁伏図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。



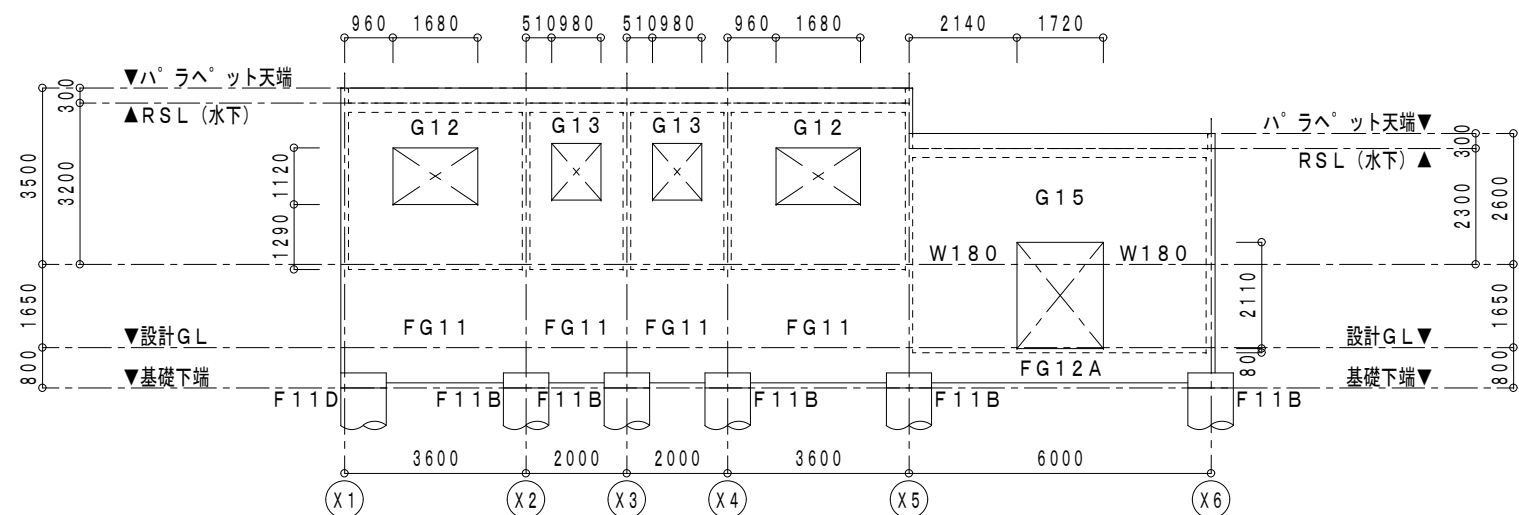
基礎伏図 1 : 150  
※特記なき基礎符号は、F11Aとする。

G I コラム-S 工法			
設計添加量 (試験練り結果による)			
設計基準強度	k N / m <sup>2</sup>	1000	
コラム改良径	mm	900	
掘削長	m	7.16	5.56
空掘長	m	0.85	0.85
改良長	m	6.31	4.71
本数	本	4	8
基礎符号		F11、F11C	F11A、F11B、F11D

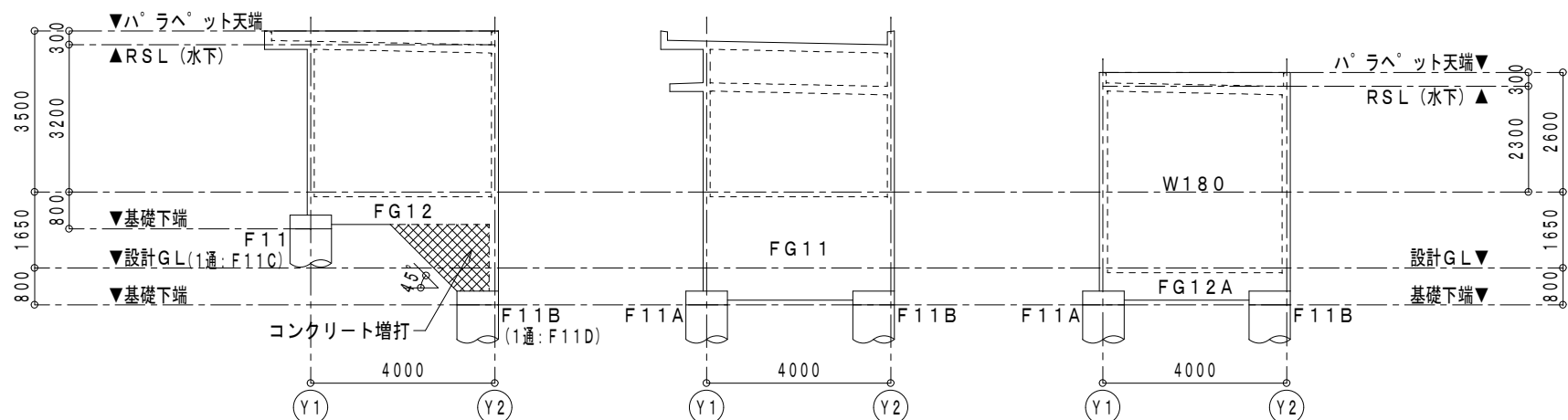
※掘削長及び改良長は、トルク値の結果により変更する事がある。  
※設計地耐力  $f_e = 294.0 \text{ kN/m}^2$  (長期)



Y1通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。



Y2通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。



X1~X4通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。

X5通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。

X6通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。

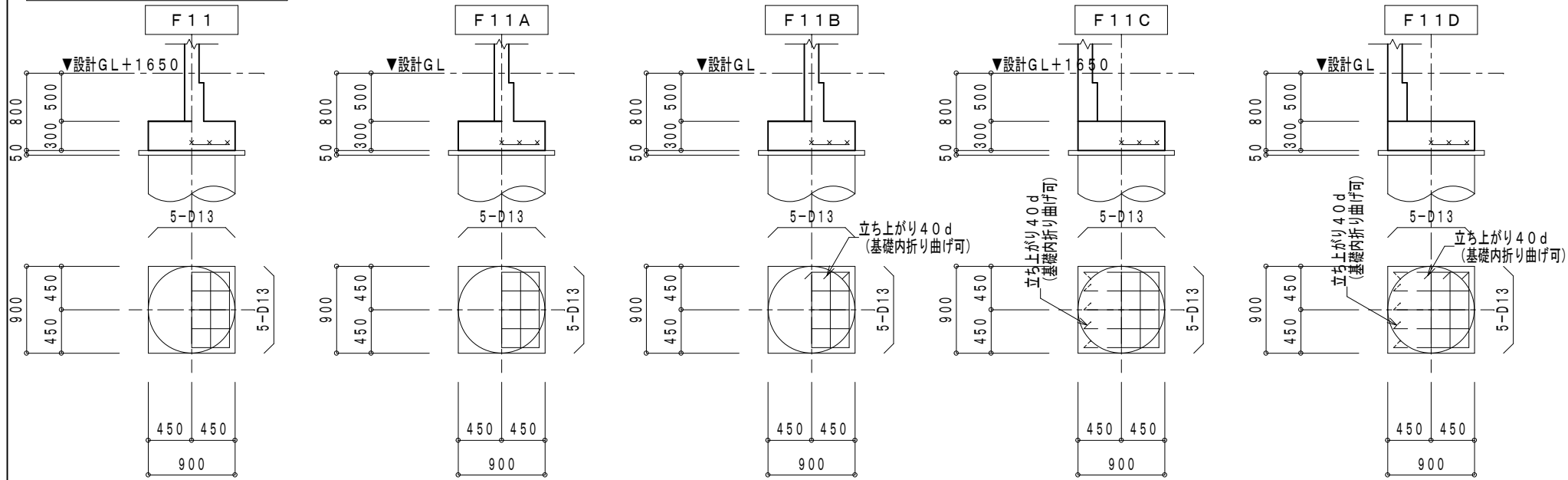
(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古川 稔

福平小学校プール新築その他本体工事  
プール付属屋①  
基礎伏図・屋根梁伏図・通軸組図  
鹿児島市建設局建築部建築課

A3:1/150

S-05

基礎リスト 1 : 6 0



壁リスト 1 : 4 0

符号		W150	W180	開口補強要領
断面	壁厚	150	180	
	配筋タイプ	シングル	ダブル	
	縦筋	D10@200	D10@200	
	横筋	D10@200	D10@200	
開口補強	縦筋	1-D13	2-D13	
	横筋	1-D13	2-D13	
	斜め筋	1-D13+1-D10	2-D13	

外部は厚20増しコンクリート打ちとする。  
内部は厚10増しコンクリート打ちとする。  
縦筋は平面配筋詳細図を優先する。

梁リスト 1 : 4 0

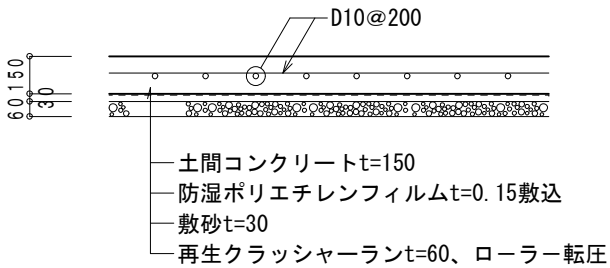
D10～D16 : SD295、D22 : SD345とする。  
幅止め筋はD10@1000以下とする。

符 号	G11	G12	G13	G14	G15	FG11	FG12, FG12A	FB1
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面								
	B×D	150×1150	150×850	150×750	180×450	180×1850	200×2250	250×600
	上端筋	1-D13	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	2-D16	2-D16
	下端筋	1-D13	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	2-D16	2-D16
	S T P	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200
	腹 筋	6-D10	5-D10	4-D10	3-D10+1-D13	18-D10	14-D10	2-D10

スラブリスト

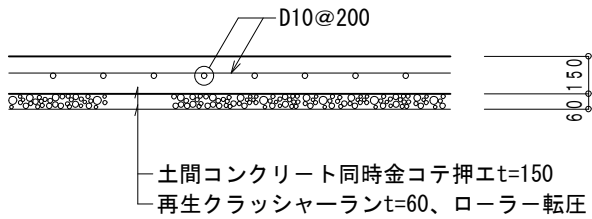
符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備 考
S11	150 増打t=30	上端筋	D10D13@200	D10@250	ワイヤーメッシュ 6φ-150×150
		下端筋	D10@200	D10@250	
S12	150 増打t=30	上端筋	D10D13@200	D10D13@200	ワイヤーメッシュ 6φ-150×150
		下端筋	D10@200	D10@200	

更衣室・トイレ



外部土間

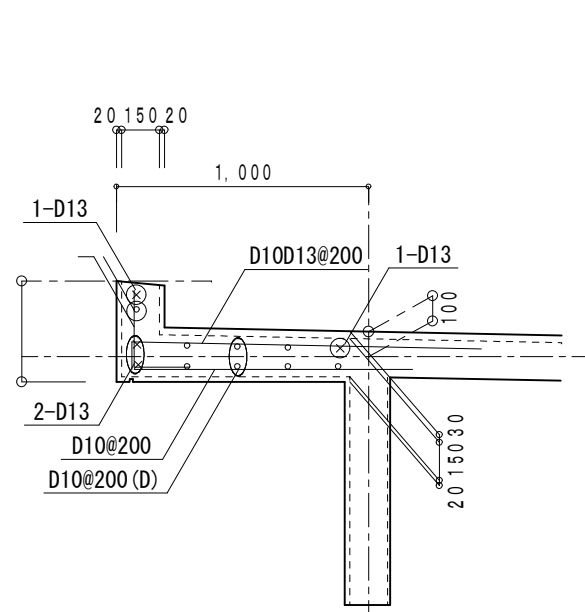
機械室



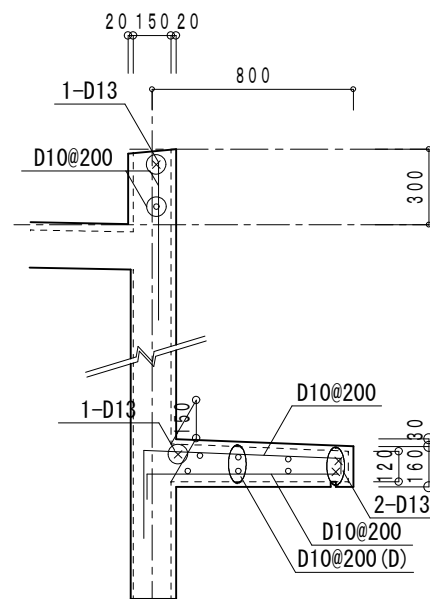
土間コンクリート配筋図 1 : 3 0

(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古 川 稔

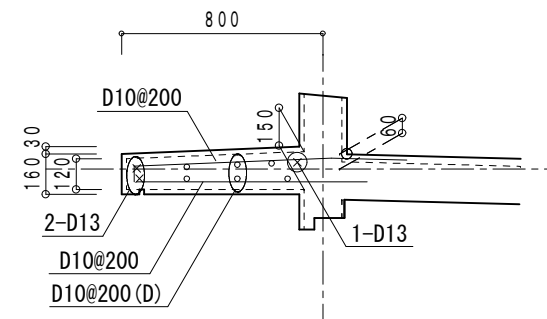
福平小学校プール新築その他本体工事  
プール付属屋① 基礎・梁・壁・スラブリスト、  
土間・底配筋図  
A3:1/60  
1/40  
1/30  
S-06  
鹿児島市建設局建築部建築課



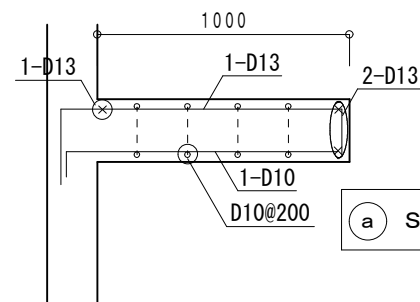
CS 12 配筋図 1 : 3 0



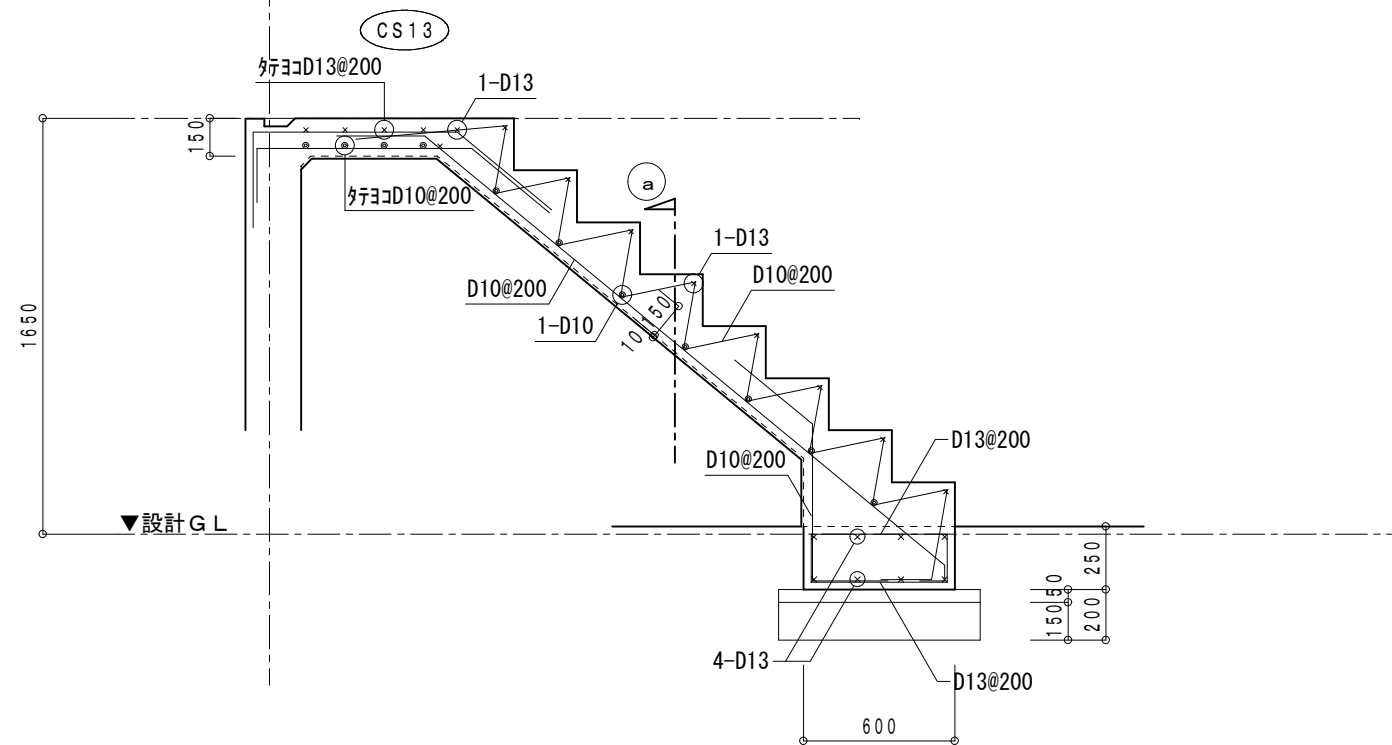
CS 11 配筋図 1 : 3 0



CS 11 配筋図 1 : 3 0



a Section 1 : 3 0



CS 13・階段配筋図 1 : 3 0

(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古川 稔

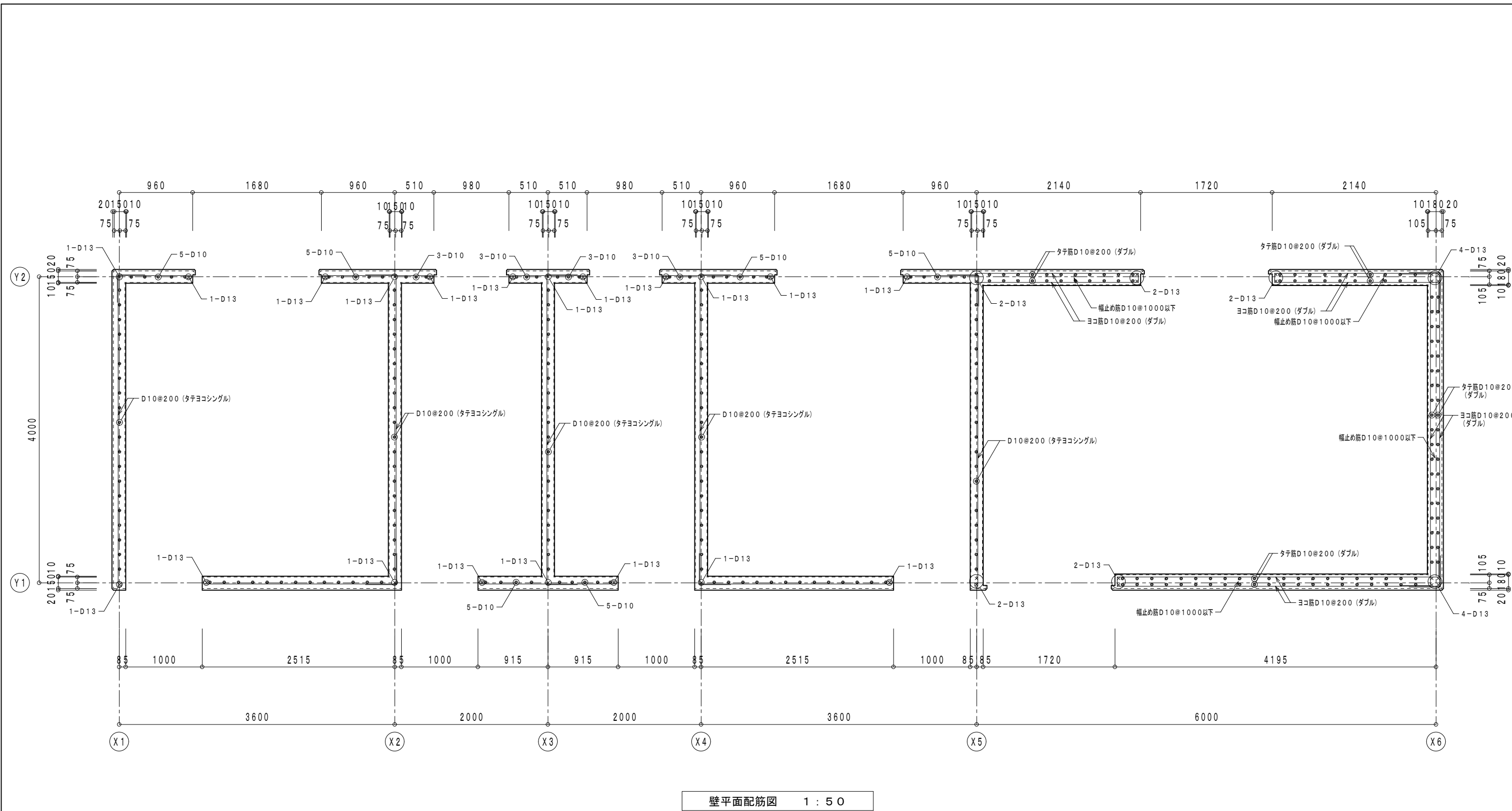
福平小学校プール新築その他本体工事

プール付属屋① 庇・階段配筋図

A3:1/30

鹿児島市建設局建築部建築課

S-07



特記事項

- ・特記無き壁は W150を示す。
- ・W150→D10@200 (タテヨコシングル) とする。
- ・外部は、厚20増しコンクリート打ちとする。
- ・内部は、厚10増しコンクリート打ちとする。
- ・巾止め筋は、D10-@1000以下とする。
- ・開口部斜め補強筋は、1-D13+1-D10 (L=80d) とする。
- ・※印部は、直交壁内35d水平アンカーする。

(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古川 稔

福平小学校プール新築その他本体工事

プール附属棟① 壁平面配筋図

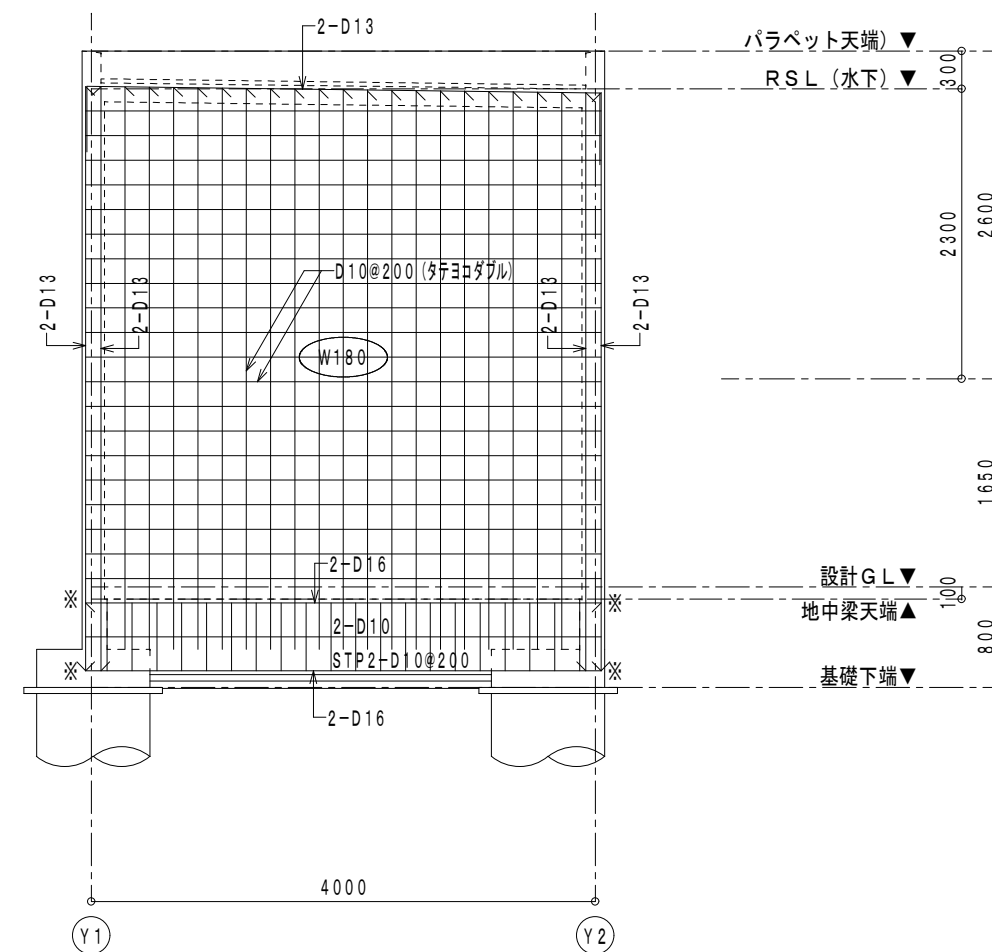
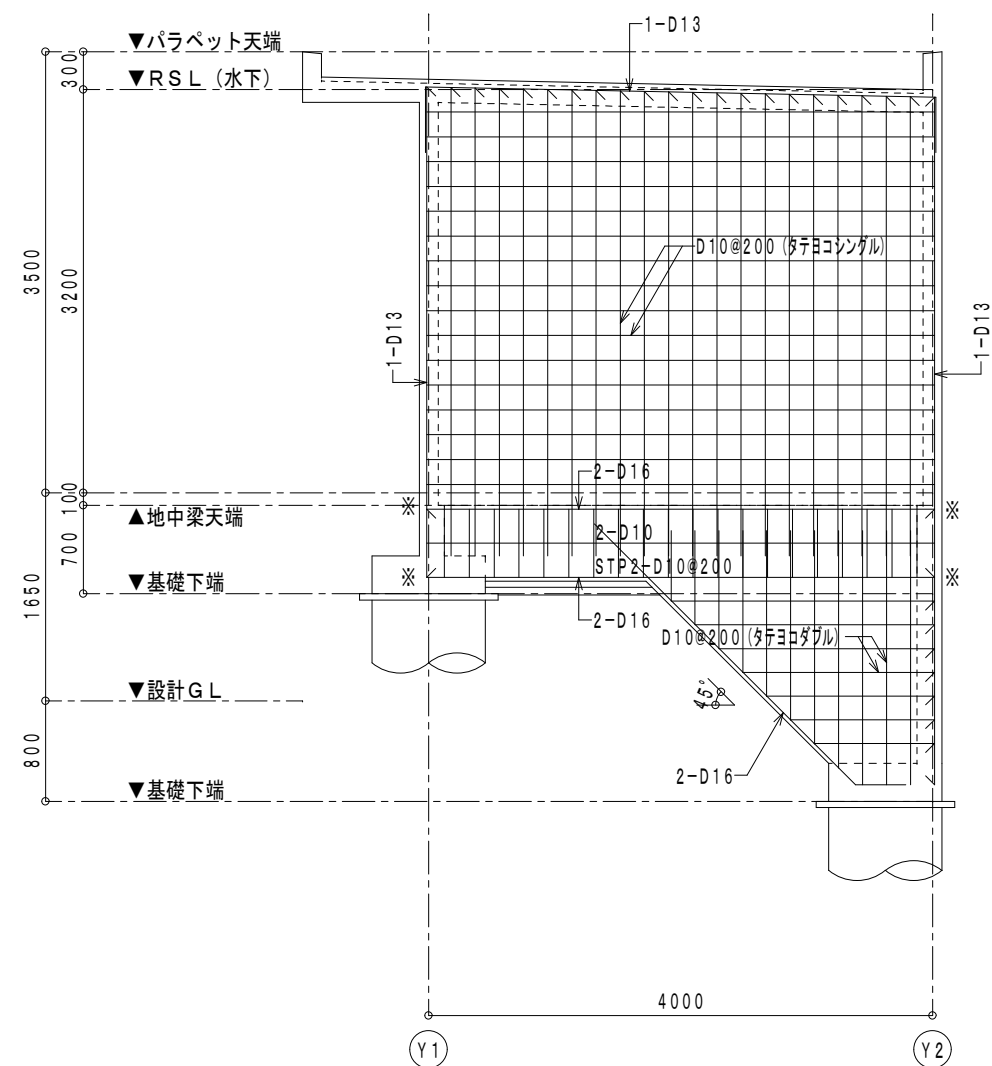
A3:1/50

鹿児島市建設局建築部建築課

S-08







特記事項

- ・特記無き壁は W150を示す。
- ・W150→D10@200 (タテヨコダブル) とする。
- ・外部は、厚20増しコンクリート打ちとする。
- ・内部は、厚10増しコンクリート打ちとする。
- ・巾止め筋は、D10-@1000以下とする。
- ・開口部斜め補強筋は、1-D13+1-D10 (L=80d) とする。
- ・※印部は、直交壁内35d水平アンカーする。

(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古川 稔

福平小学校プール新築その他本体工事  
プール付属屋① X2・X6通架構配筋図 A3:1/60  
鹿児島市建設局建築部建築課  
S-10

構造設計標準仕様

適用は 図 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

（1）工事名称 福平小学校プール新築その他本体工事

建築場所 鹿児島市平川町819番地の3

（2）工事種別 新築 別棟増築 増改築 改築

（3）構造種別 木造（W） 補強コンクリートブロック造（CB） 鉄骨造（S） 鉄筋コンクリート造（RC） 壁式鉄筋コンクリート造（WRC） 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC） プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）

（4）階数 地下 階 地上 1階 塔屋 階

（5）主要用途 倉庫

（6）屋上付属物 広告塔 高架水槽 ton 煙突 キュービクル ton

（7）増築計画 有（ ） 無

（8）付帯工事 門塙 擁壁

（9）特別な荷重 エレベータ 6人乗（ロープ式 油圧式） リフト ton ホイスト ton 倉庫積載床用 Kg/m<sup>2</sup> 受水槽 ton

（10）構造計算ルート X方向ルート 1 Y方向ルート 1

2. 使用構造材料

（1）コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度F <sub>c</sub>	N/mm <sup>2</sup>	備考
捨コンクリート	普通	13.5	18	15
土間コンクリート	普通	18、30		15
基礎、基礎梁	普通	21、24		15～18
柱、梁、床、壁	普通 軽量	21、24		18
柱、梁、床、壁	普通 軽量	21、24		18
柱、梁、床、壁	普通 軽量	13.5	21	18

（2）コンクリートブロック（CB）

A種 B種 C種 厚100、120、150、190

（3）鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	SD295	D16以下	梁、床、壁	重ね継手
	SD345	D19～D25	梁	
	SD390			ガス圧接継手（D19以上）
				特殊継手
				（ ）

（4）鉄骨

	種類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度
鋼材	SS400 SN400A SN400B	梁	有 無	1.0F 0.9F
	BCR295 STKR40 STKR490	柱	有 無	1.0F 0.9F
	SM490A SM490B		有 無	1.0F 0.9F
	SSC400	胴縁	有 無	1.0F 0.9F

（5）ボルト

高力ボルト F10T S8T S10T 認定品（M12 M16 M20 M22 M24）

中ボルト φ=12 φ= 高力ボルトすべり係数試験 要 否

アンカーボルト φ= L= mm ナット（ダブル）（別添付柱脚リスト参照） φ= L= mm ナット（ダブル） φ= L= mm ナット（ダブル） φ= L= mm ナット（ダブル）

頭付スタッド φ=16 L=80 mm

（6）屋根、床、壁 使用箇所

A L C板 厚 t= 壁

折版 形式 屋根

デッキプレート 形式 QL99-50-12 厚 t=1.2 床

キーストンプレート 形式 厚

3. 地盤

（1）地盤調査 有（敷地内 近隣） ボーリング調査 平板載荷試験 水平地盤反力係数の測定 無（調査予定 有 無）

（2）地盤調査計画 ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定 土質試験 物理調査 平板載荷試験

（3）地盤調査及び試験杭の結果により、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

（4）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）

深度土質N値標準貫入試験

調査地盤 KBM 9.34m

孔内水位 無

4. 地業工事

（1）直接基礎 ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験堀 有 無 深さGL-0.8m、支持層—長期許容支持力度 294.0kN/m<sup>2</sup> 載荷試験 有 無

（2）基礎杭 支持層—

杭種	材料	施工法	備考
RC PC PHC H鋼 鋼管 摩擦杭 PHC節杭	PC（A種 B種 C種） PHC（A種 B種 C種） 鋼材 SS400 STK400	打ち込み 埋込み（セメントミルク工法）	
場所打ちコンクリート杭	コンクリートF <sub>c</sub> = スラブ セメント量 Kg/m <sup>3</sup> 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	オールケーシング 掘削杭 リバースケーキュレーション アースドリル ミニアース 8H 深礎 手掘 機械掘	掘削杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書

試験杭（有 無）（コアホーリング<sup>〃</sup>載荷） 1本

杭径（mm）	設計支持力（kN/m <sup>2</sup> 杭の長さ（m）	本数	特記事項
900φ	294.0	6.36	8 F21、F21A基礎

5. 鉄筋コンクリート工事

（1）コンクリート 図コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。 図セメントは、JIS R5300の普通ポルトランドセメントを標準とする。 図調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。 図寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。 図フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。 図構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。 また、打ち込み量が150m3をこえる場合は150m3ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。—一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。 図ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。 （2）鉄筋 図鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。 図鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図（1）（2）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋基準図（1）（2）」によるが添付なき場合は、公共建築工事標準仕様書（最新版）による。 図D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。 図ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に1回行い、1回試験は30本以上とする。 外観検査 有 無、引張試験 有 無、超音波深傷試験 有 無 第三者検査機関名 ㈱メタル技研 Tel.099-264-4910 図柱の帯筋（HOOP）の加工方法は、 H型（タガ型） W型（溶接型） S型（スパイラルラル型）とする。 図コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第4条の試験機関で行うこと。 試験機関名 代行業者名 代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。 （3）型枠 図材料 合板厚 12mmを標準とする。 図型枠存置期間

種類	部位	せき板		支柱				
		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下		
セメントの種類 存置期間の平均気温	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント		
	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	普通ポルトランドセメント			
	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	高炉セメントA種			
					シリカセメントA種			
コンクリートの材料	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
リ	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
リ	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		5N/mm <sup>2</sup>		設計基準強度の50%		設計基準強度の85% 100%		

注）1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。  
2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他ののはり場合も原則として行わない。  
3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。  
4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。  
5 支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。 一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。  
6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による、

6. 鉄骨工事

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による 図日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」 図鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」 （2）工事監理者の承認を必要とするもの 制作工場 製作要領書 工作図 施工計画書 国土交通大臣指定性能評価機関認定工場（大臣認定 グレードまたは都登録 ランク） 材料規格証明書または試験成績書 図鋼材 図高力ボルト 図特殊ボルト 図スタッドボルト 図社内検査表 （3）工事監理者が行う検査項目 図印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること 図現寸検査 図組立・開先検査 図製品検査 図建方検査 （S490C材は、サムチェッカーにて材質を確認する事） （4）接合部の溶接は下記によること 図東京都アーク溶接」工事監理基準（建築構造設計指針第12章） 図鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章） 図日本建築学会「溶接作業基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」 （5）接合部の検査 図溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事管理者	
図突合せ溶接部	超音波深傷試験	100%	30%	100%	
図	外観（目視）検査	100%	30%	100%	
図	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					

※第三者検査機関とは、工事監理者（設計監理者）が、受入検査を代行させるために自ら指定した検査会社をいう。  
注）現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。  
注）社内検査が100%行えない場合は第三者による全数検査を行うこと。  
注）第三者検査機関の変更は不可とする。 図高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。 図高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。 締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。 （6）防錆塗装 図防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JISK5674 1種、2回塗りを標準とする。 図現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。 図錆止めは、JISH8641（溶融亜鉛メッキ：HDZ55）とする。 図溶融亜鉛メッキ部材の高力ボルト摩擦接合面は、りん酸塩処理（同等品以上）を行うこと。 （7）耐火被覆の材料 図

7. 設備関係

図特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。 図設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。 図床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。 図建築設備については、建築基準法施行令129条の2の3に適合させる事とする。

8. その他

図諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。 図各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。 図必要に応じて記録写真を撮り保管すること。 図特記なき場合は、本仕様書に従うものとする。又、本仕様書に明記なき場合は、JASS5及び鉄筋コンクリート配筋指針・公共建築工事標準仕様書（最新版）による。 図梁貫通孔の補強は、公共建築工事標準仕様書（最新版）による。 又、公共建築工事標準仕様書（最新版）に該当しない場合は別途検討を行うこと。

（株）アーキ・プラン

一級建築士 第 84458 号

古川 稔

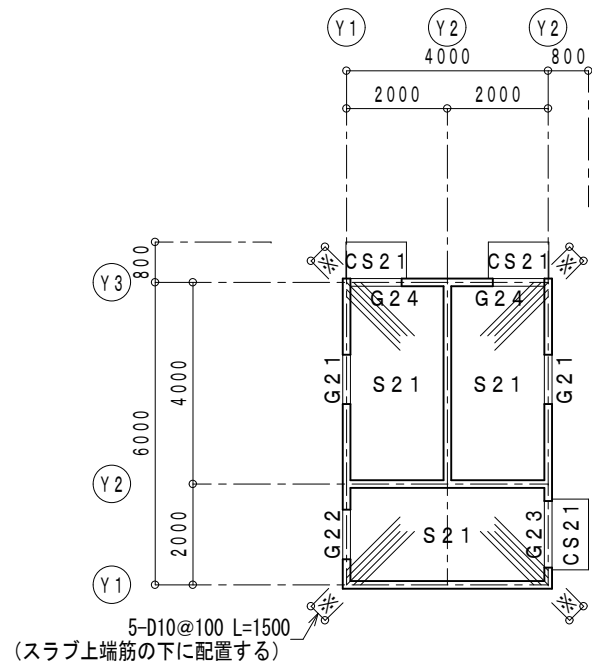
福平小学校プール新築その他本体工事

プール付属屋② 構造設計標準仕様

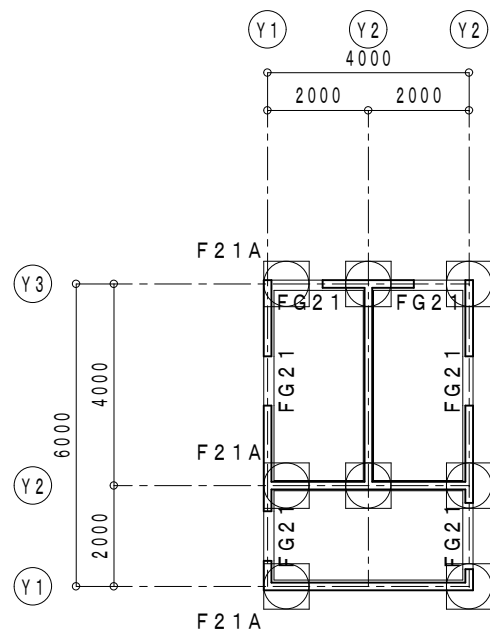
鹿児島市建設局建築部建築課

NO. SCALE

S-11



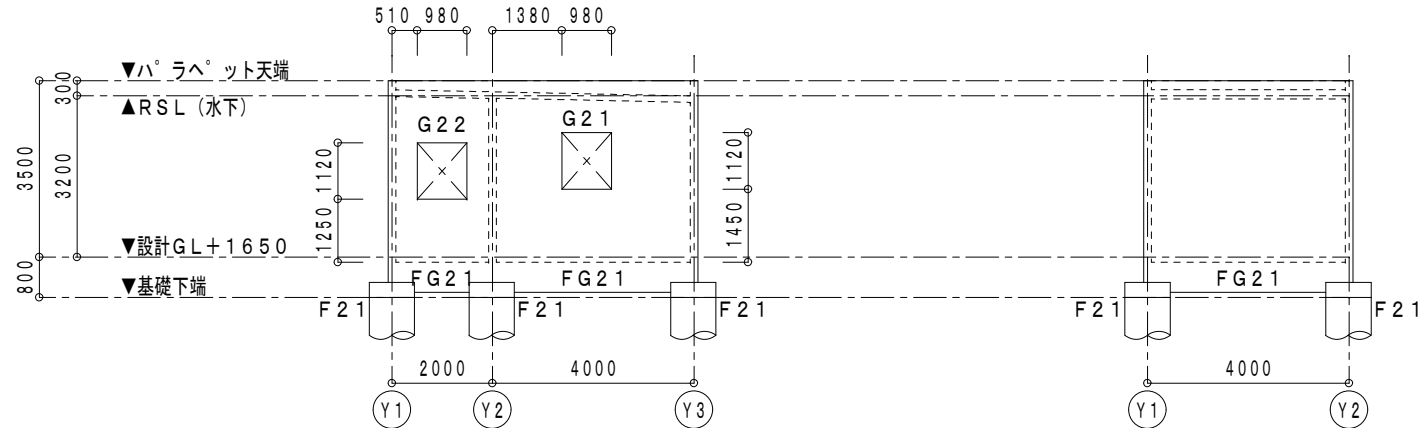
屋根梁伏図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。



基礎伏図 1 : 150  
※特記なき基礎符号は、F21とする。

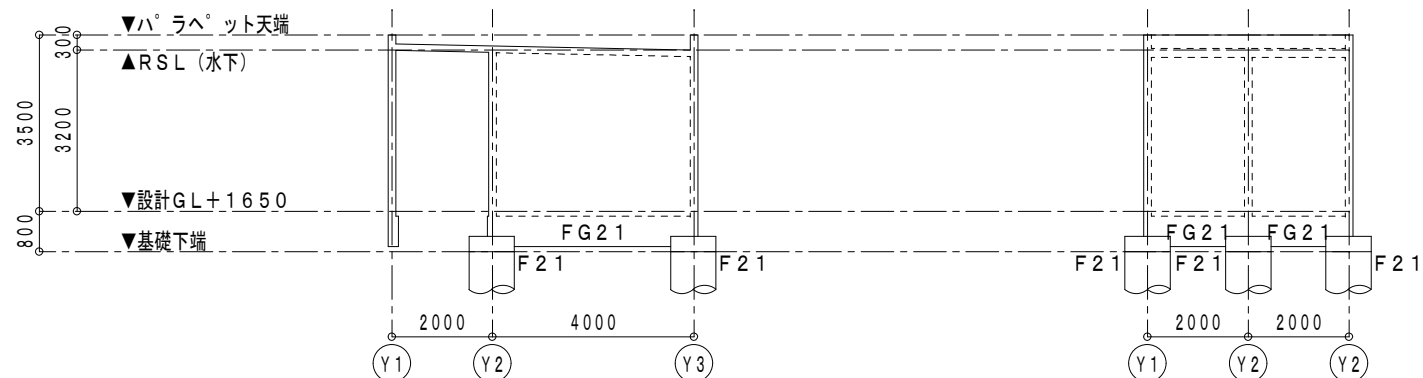
G I コラム-S 工法		
設計添加量 (試験練り結果による)		
設計基準強度	kN/m <sup>2</sup>	1000
コラム改良径	mm	900
掘削長	m	7.21
空掘長	m	0.85
改良長	m	6.36
本数	本	8
基礎符号		F21, F21A

※掘削長及び改良長は、トルク値の結果により変更する事がある。  
※設計地耐力  $f_e = 294.0 \text{ kN/m}^2$  (長期)



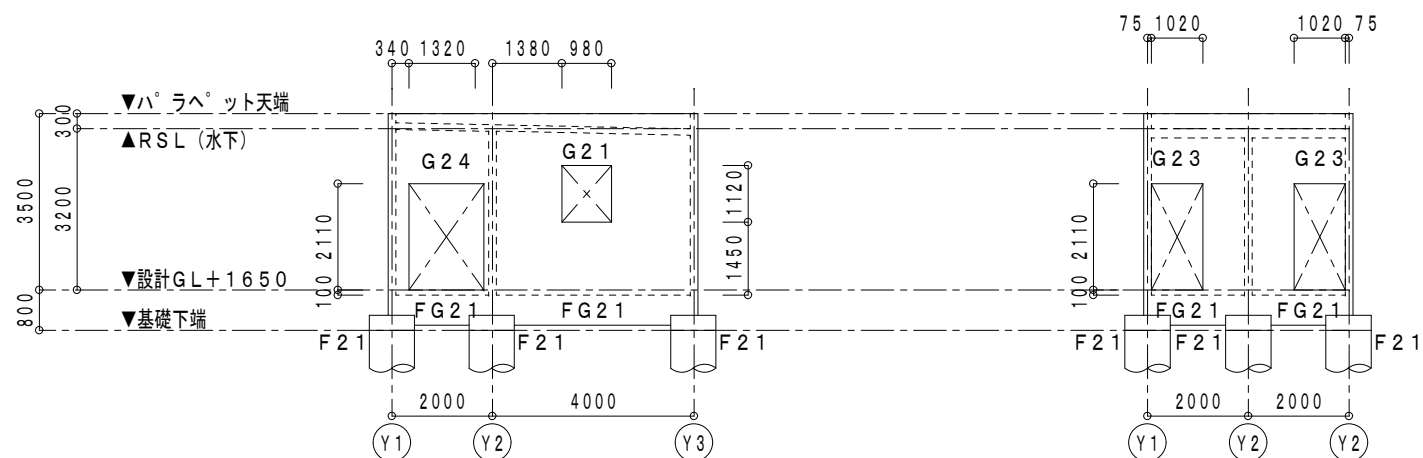
X1通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。

Y1通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。



X2通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。

Y2通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。

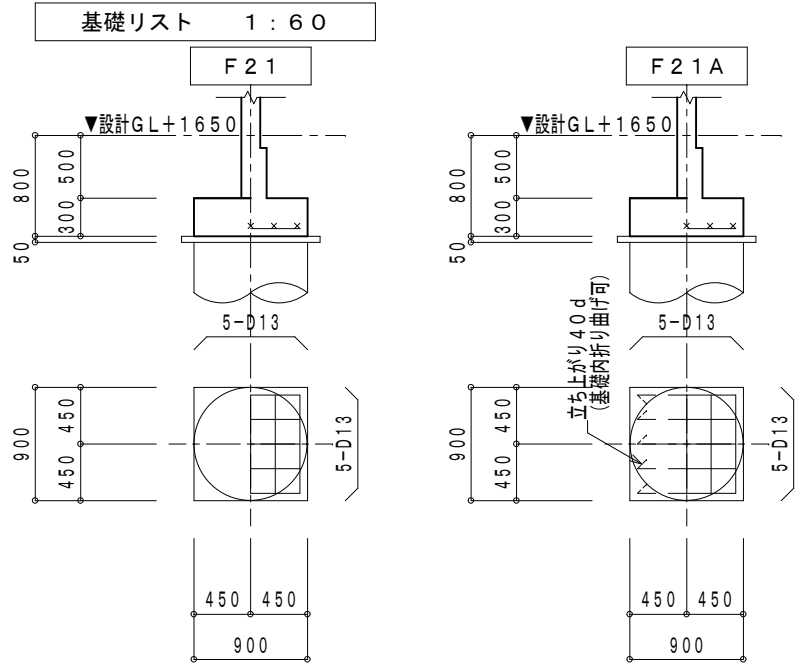


X3通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。

Y3通軸組図 1 : 150  
※特記なき壁符号は、W150とする。

(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古川 稔

福平小学校プール新築その他本体工事  
プール付属屋②  
基礎伏図・屋根梁伏図・通軸組図  
A3:1/150  
鹿児島市建設局建築部建築課



梁リスト 1 : 4 0

D10～D16 : SD295、D22 : SD345とする。  
幅止め筋はD10@1000以下とする。

符 号	G 2 1	G 2 2	G 2 3	G 2 4	FG 2 1
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面					
B × D	150×700	150×900	150×1050	150×1140	200×600
上端筋	1-D13	1-D13	1-D13	1-D13	2-D16
下端筋	1-D13	1-D13	1-D13	1-D13	2-D16
S T P	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200
腹 筋	4-D10	5-D10	6-D10	6-D10	2-D10

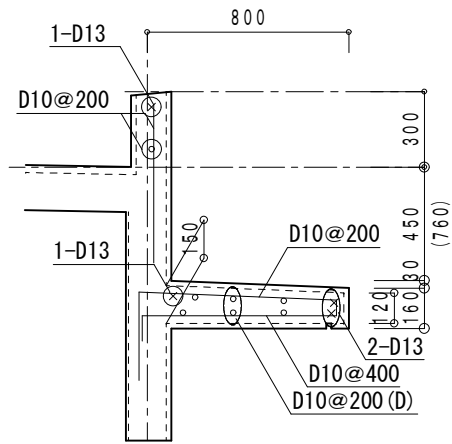
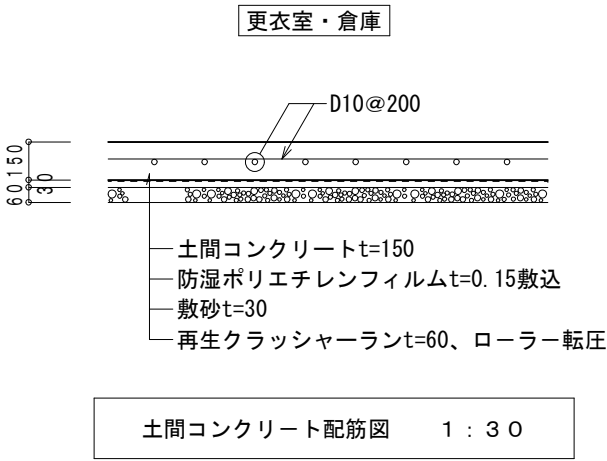
壁リスト 1 : 4 0

外部は厚20増しコンクリート打ちとする。  
内部は厚10増しコンクリート打ちとする。  
縦筋は平面配筋詳細図を優先する。

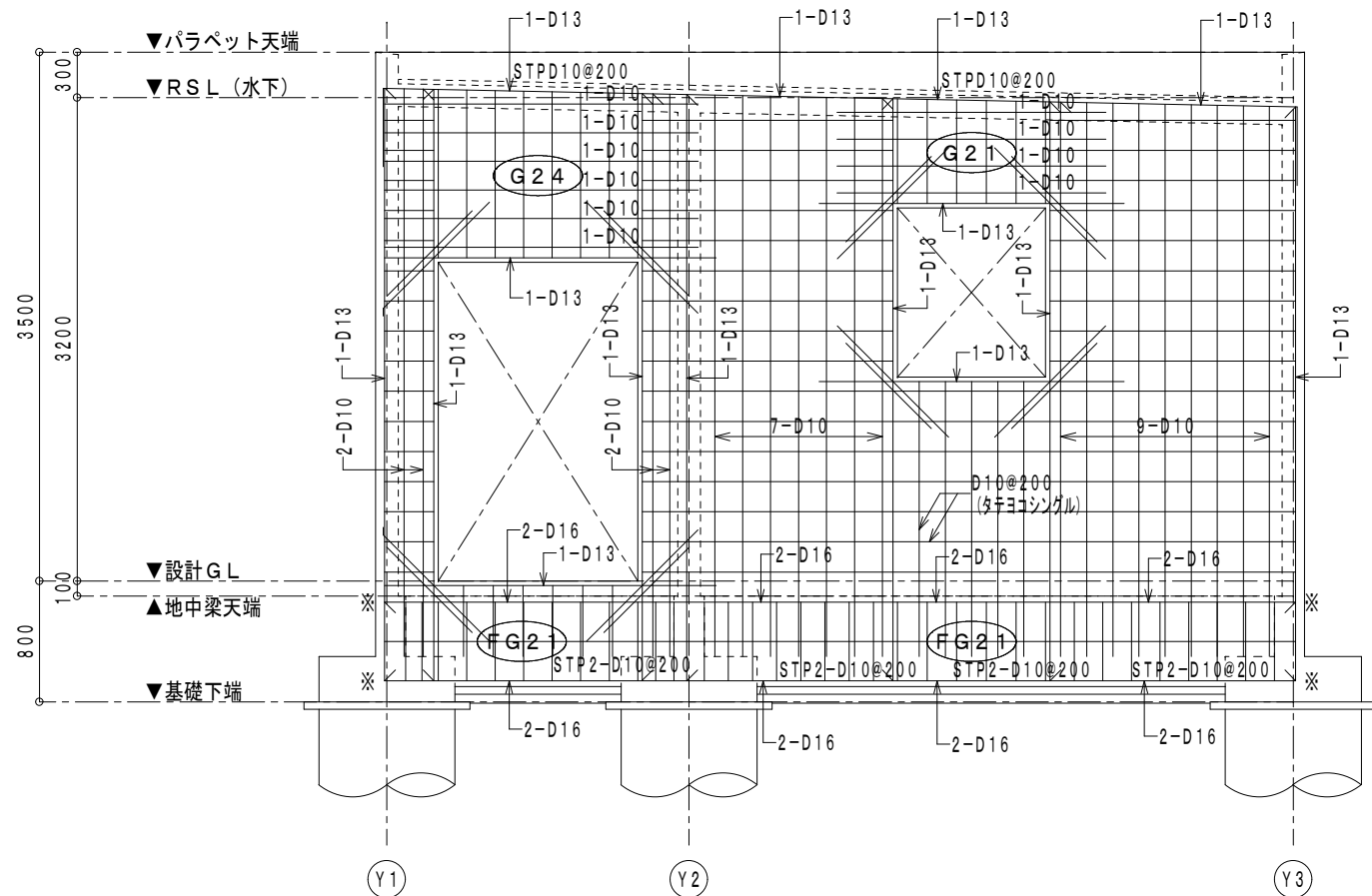
符号	W 1 5 0	開口補強要領
断面		
壁厚	150	
配筋タイプ	シングル	
縦筋	D10@200	
横筋	D10@200	
開 口 補 強	縦筋	1-D13
	横筋	1-D13
	斜め筋	1-D13+1-D10

スラブリスト

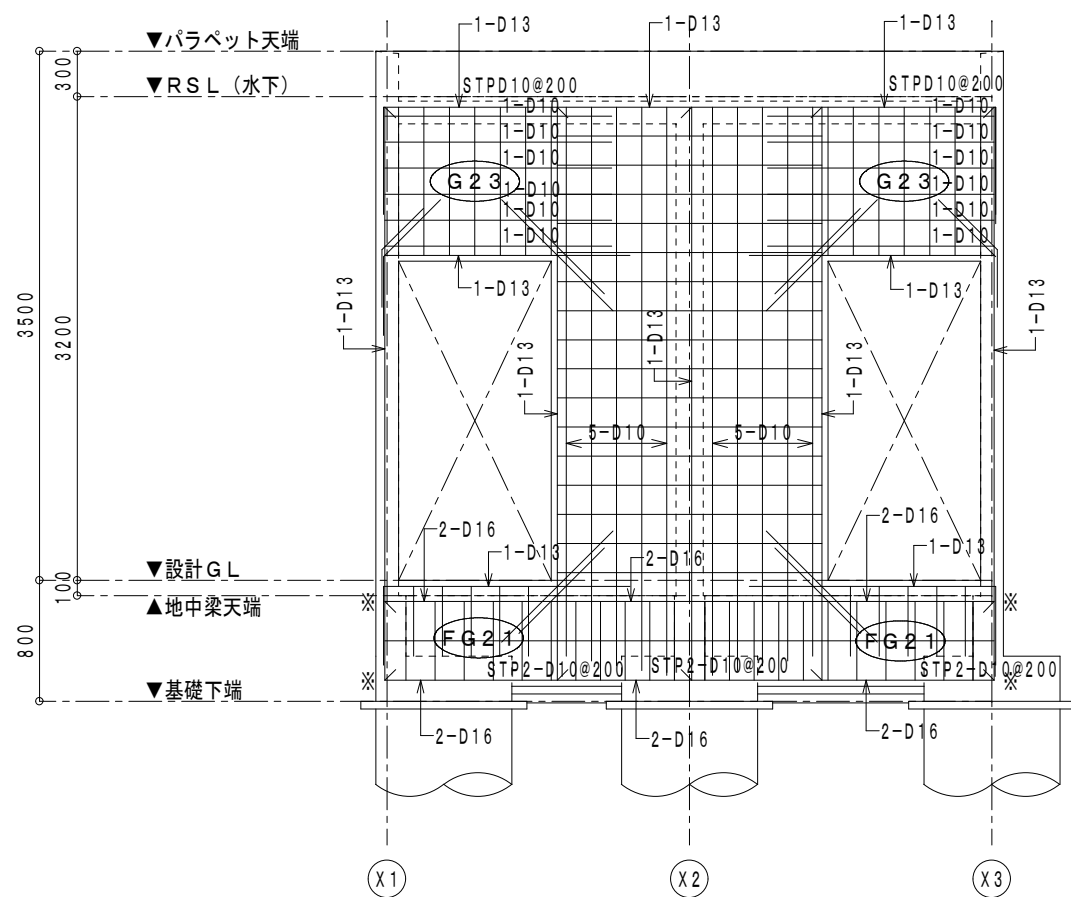
符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備 考
S 2 1	1 5 0 増打t=30	上端筋	D10D13@200	D10@250	ワイヤーメッシュ 6φ-150×150
		下端筋	D10@200	D10@250	
		上端筋			
		下端筋			



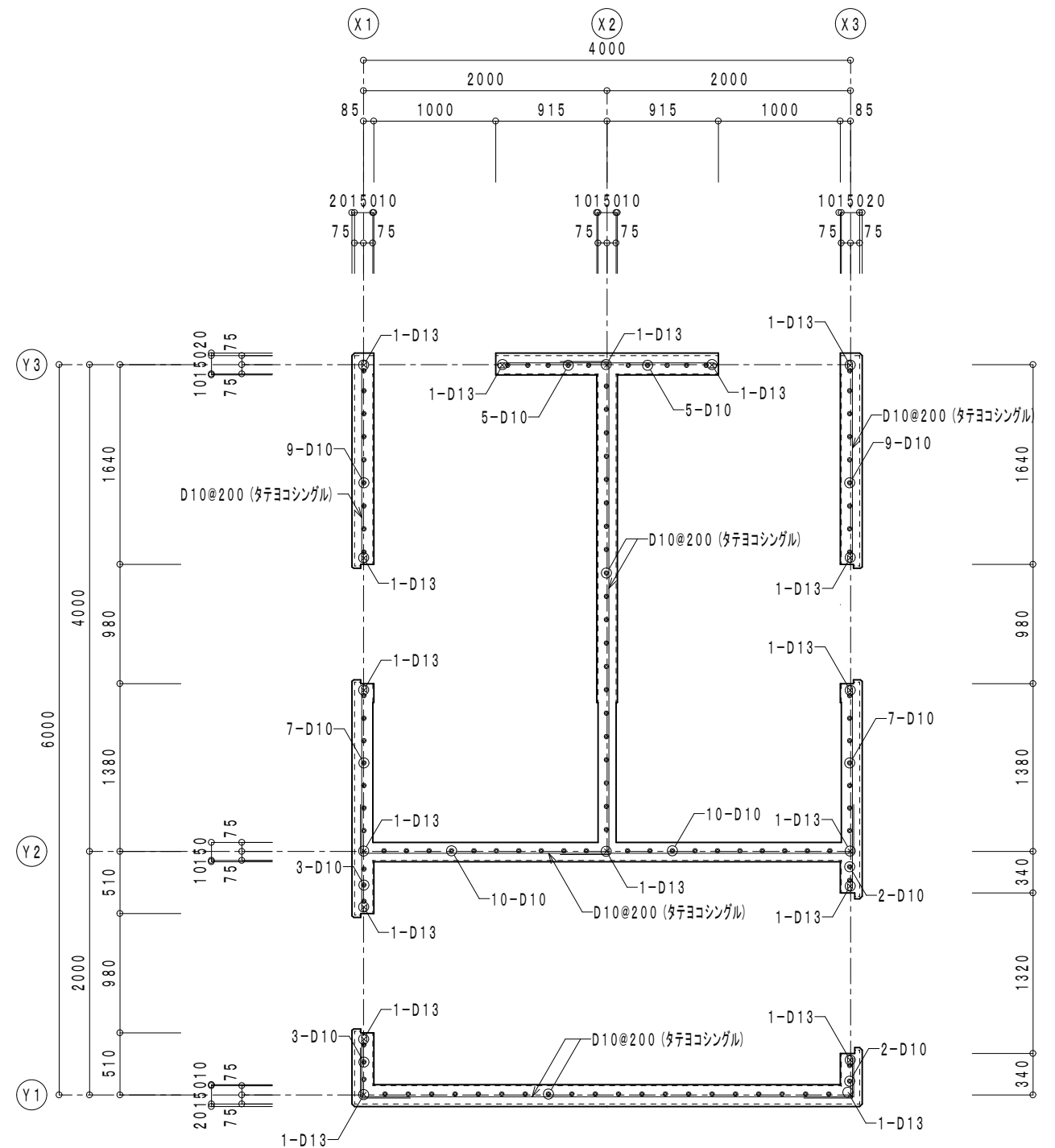
CS 2 1 配筋図 1 : 3 0



X 1 通架構配筋図 1 : 5 0



Y 3 通架構配筋図 1 : 5 0



壁平面配筋図 1 : 5 0

特記事項

- ・ 特記無き壁は W150を示す。
- ・ W150→D10@200 (タテヨコシングル) とする。
- ・ 外部は、厚20増しコンクリート打ちとする。
- ・ 内部は、厚10増しコンクリート打ちとする。
- ・ 巾止め筋は、D10-@1000以下とする。
- ・ 開口部斜め補強筋は、1-D13+1-D10 (L=80d) とする。
- ・ ※印部は、直交壁内35d水平アンカーする。

(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古川 稔

福平小学校プール新築その他本体工事  
プール付属棟② X1・Y3通架構配筋図、  
壁平面配筋図  
鹿児島市建設局建築部建築課

A3:1/50

S-14

構造設計標準仕様

適用は 図 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

（1）工事名称 福平小学校プール新築その他本体工事

建築場所 鹿児島市平川町819番地の3

（2）工事種別 新築 別棟増築 増改築 改築

（3）構造種別

☐木造（W）

☐補強コンクリートブロック造（CB）

☐鉄骨造（S）

☐鉄筋コンクリート造（RC）

☒壁式鉄筋コンクリート造（WRC）

☐鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）

☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）

☐プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）

☐

（4）階数

地下

階

地上

1階

塔屋

階

（5）主要用途

倉庫

（6）屋上付属物

☐広告塔

☐高架水槽

ton

☐

☐煙突

☐キュービクル

ton

☐

☐

☐

☐

（7）増築計画

☐有（）

☒無

（8）付帯工事

☐門塙

☐擁壁

☐

☐

☐

（9）特別な荷重

☐エレベータ

6人乗（ロープ式 油圧式）

☐リフト

ton

☐ホイスト

ton

☐倉庫積載床用

Kg/m<sup>2</sup>

☐受水槽

ton

（10）構造計算ルート

X方向ルート 1 Y方向ルート 1

2. 使用構造材料

（1）コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度F <sub>c</sub>	=N/mm <sup>2</sup>	cm	備考
捨コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 13.5 <input checked="" type="checkbox"/> 18	15		
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 18、 <input type="checkbox"/> 30	15		
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 21、 <input type="checkbox"/> 24	15～18		
柱、梁、床、壁	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	<input type="checkbox"/> 21、 <input type="checkbox"/> 24	18		
柱、梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	<input checked="" type="checkbox"/> 21、 <input type="checkbox"/> 24	18		
柱、梁、床、壁	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	<input type="checkbox"/> 13.5 <input checked="" type="checkbox"/> 21	18		

（2）コンクリートブロック（CB）

☐A種

☐B種

☐C種

厚100、120、150、190

（3）鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD295	D16以下	梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19～D25	梁	
	<input type="checkbox"/> SD390			<input type="checkbox"/> ガス圧接継手（D19以上）
	<input type="checkbox"/>			
	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> 特殊継手
	<input type="checkbox"/>			

（4）鉄骨

	種類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度
鋼材	<input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SN400A <input type="checkbox"/> SN400B	梁	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 1.0F <input type="checkbox"/> 0.9F
	<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> STKR400 <input checked="" type="checkbox"/> STKR490	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 1.0F <input type="checkbox"/> 0.9F
	<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SM490B <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 1.0F <input type="checkbox"/> 0.9F
	<input type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/>	胴縁	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 1.0F <input type="checkbox"/> 0.9F
備考				

（5）ボルト

☐高力ボルト ☐F10T☐S8T ☐S10T

認定品（☐M12☐M16☐M20☐M22☐M24）

☐中ボルト φ=12 φ= 高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☐否

☐アンカーボルト φ= L= mm ナット（ダブル）

（別添付柱脚リスト参照） φ= L= mm ナット（ダブル）

φ= L= mm ナット（ダブル）

φ= L= mm ナット（ダブル）

φ=16 L=80 mm

（6）屋根、床、壁

☐ALC板

厚 t=

壁

☐折版

形式

屋根

☐デッキプレート

形式 QL99-50-12

厚 t=1.2

床

☐キーストンプレート

形式

厚

3. 地盤

（1）地盤調査

☒有（☒敷地内 ☐近隣）

☐ボーリング調査

☐平板載荷試験

☐水平地盤反力係数の測定

☐無（調査予定 ☐有 ☐無）

☐

（2）地盤調査計画

☐ボーリング調査

☐静的貫入試験

☒標準貫入試験

☐水平地盤反力係数の測定

☐土質試験

☐物理調査

☐平板載荷試験

☐

（3）地盤調査及び試験杭の結果により、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

（4）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）

深度

土質

N値

標準貫入試験

10

20

30

40

50

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

火山灰質礫混じり粘性土

風化シラス

溶結凝灰岩

☐調査地盤

KBM 7.87m

☐孔内水位

無

4. 地業工事

（1）直接基礎 ☐ベタ基礎 ☒布基礎 ☐独立基礎

試験堀 ☐有 ☒無

深さGL-0.8m、支持層-長期許容支持力度 294.0kN/m<sup>2</sup>

載荷試験 ☐有 ☒無

（2）基礎杭 支持層-

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PC	PC（ <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種）	<input type="checkbox"/> 打ち込み	
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC（ <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種）	<input type="checkbox"/> 埋込み（セメントミルク工法）	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> STK400	<input type="checkbox"/>	大臣認定第 号
<input type="checkbox"/> PHC節杭		<input type="checkbox"/>	年 月 日
<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭	コンクリートF <sub>c</sub> = スラブ セメント量 Kg/m <sup>3</sup> 鉄筋 主筋 SD H O O P SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 拡底杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース	拡底杭 日本建築センター認定 第 号

杭仕様 ☐施工計画書承認 ☐杭施工結果報告書

試験杭（☐有 ☐無）（☐コアホーリング<sup>〃</sup>載荷） 1本

杭径（mm）	設計支持力（kN/m <sup>2</sup> ）	杭の長さ（m）	本数	特記事項
900φ	294.0	4.66	4	F1基礎

5. 鉄筋コンクリート工事

（1）コンクリート

図コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。

図セメントは、JIS R5300の普通ポルトランドセメントを標準とする。

図調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

図寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

図フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

図構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。

また、打ちみ量が150m3をこえる場合は150m3ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。―一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。

図ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

（2）鉄筋

図鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。

図鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図（1）（2）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋基準図（1）（2）」によるが添付なき場合は、公共建築工事標準仕様書（最新版）による。

☐D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

☐ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に1回行い、1回試験は30本以上とする。

外観検査 ☐有 ☐無、引張試験 ☐有 ☐無、超音波深傷試験 ☐有 ☐無

第三者検査機関名  
(有)メタル技研 Tel.099-264-4910

☐柱の帯筋（H O O P）の加工方法は、☐H型（タガ型）☐W型（溶接型）☐S型（スパイラルラル型）とする。

☐コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験機関名

代行業者名

代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

（3）型枠

図材料 合板厚 12mmを標準とする。

図型枠存置期間

種類 部位 セメントの種類 存置期間の平均気温	せき板		支柱					
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下			
コンクリートの材料令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5N/mm <sup>2</sup>		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%			100%

注）1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注）2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他ののはり場合も原則として行わない。

注）3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注）4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注）5 支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

注）6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による、

6. 鉄骨工事

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による

☐日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」

☐鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

（2）工事監理者の承認を必要とするもの

☐制作工場 ☐製作要領書 ☐工作図 ☐施工計画書

国土交通大臣指定性能評価機関認定工場（大臣認定 グレードまたは都登録 ランク）

☐材料規格証明書または試験成績書

☐鋼材 ☐高力ボルト ☐特殊ボルト ☐スタッドボルト

☐社内検査表

（3）工事監理者が行う検査項目

☐印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）

☐現寸検査

☐組立・開先検査

☐製品検査

☐建方検査

(S N 4 9 0 C材は、サムチェッカーにて材質を確認する事)

（4）接合部の溶接は下記によること

☐東京都アーク溶接」工事監理基準（建築構造設計指針第12章）

☐鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）

☐日本建築学会「溶接作業基準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」

（5）接合部の検査

☐溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事管理者	
<input type="checkbox"/> 突合せ溶接部	超音波深傷試験	100%	30%	100%	
<input type="checkbox"/>	外観（目視）検査	100%	30%	100%	
<input type="checkbox"/>	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
※第三者検査機関とは、工事監理者（設計監理者）が、受入検査を代行させるために自ら指定した検査会社をいう。					
注）現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。					
注）社内検査が100%行えない場合は第三者による全数検査を行うこと。					
注）第三者検査機関の変更は不可とする。					
<input type="checkbox"/> 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライNDER掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。					
<input type="checkbox"/> 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。					
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。					
（6）防錆塗装					
<input type="checkbox"/> 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674 1種、2回塗りを標準とする。					
<input type="checkbox"/> 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。					
<input type="checkbox"/> 錆止めは、JIS H8641（溶融亜鉛メッキ：HDZ55）とする。					
<input type="checkbox"/> 溶融亜鉛メッキ部材の高力ボルト摩擦接合面は、りん酸塩処理（同等品以上）を行うこと。					
（7）耐火被覆の材料					
<input type="checkbox"/>					

7. 設備関係

☒特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。

☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。

☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

☒建築設備については、建築基準法施行令129条の2の3に適合させる事とする。

8. その他

☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

☒必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

☒特記なき場合は、本仕様書に従うものとする。又、本仕様書に明記なき場合は、JASS5及び鉄筋コンクリート配筋指針・公共建築工事標準仕様書（最新版）による。

☒梁貫通孔の補強は、公共建築工事標準仕様書（最新版）による。

又、公共建築工事標準仕様書（最新版）に該当しない場合は別途検討を行うこと。

（株）アーキ・プラン

一級建築士 第 84458 号

古川 稔

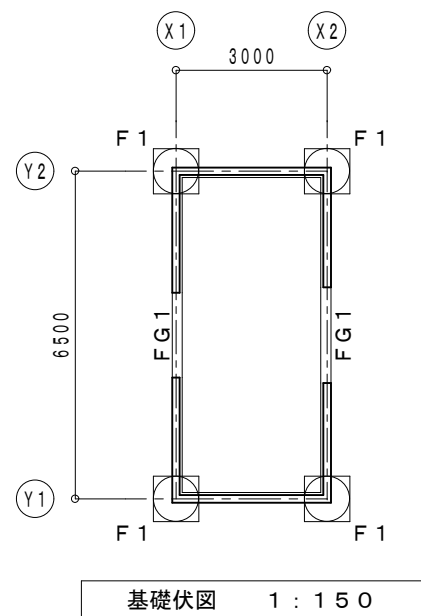
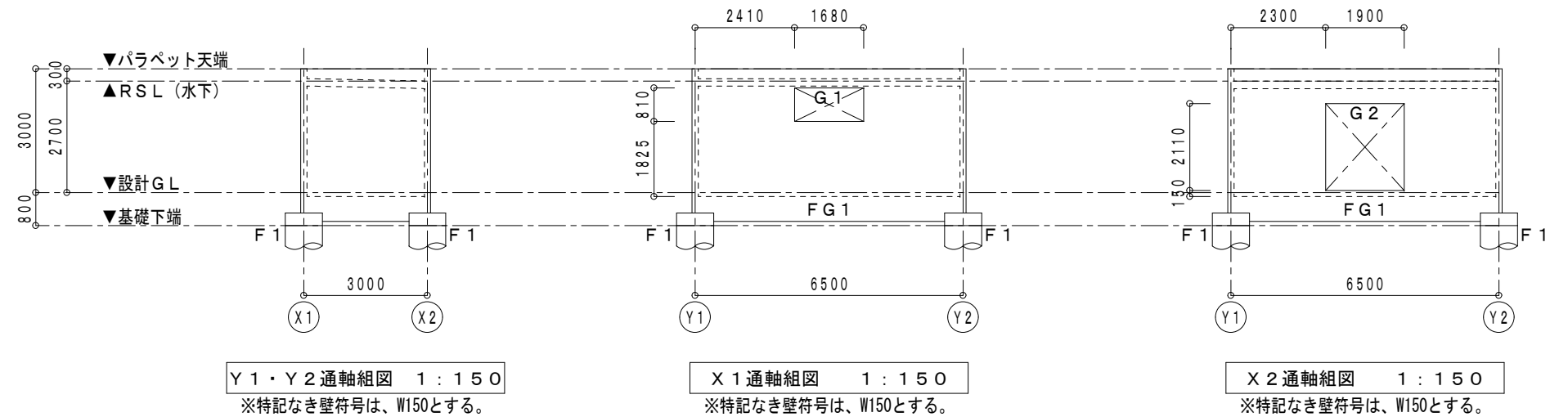
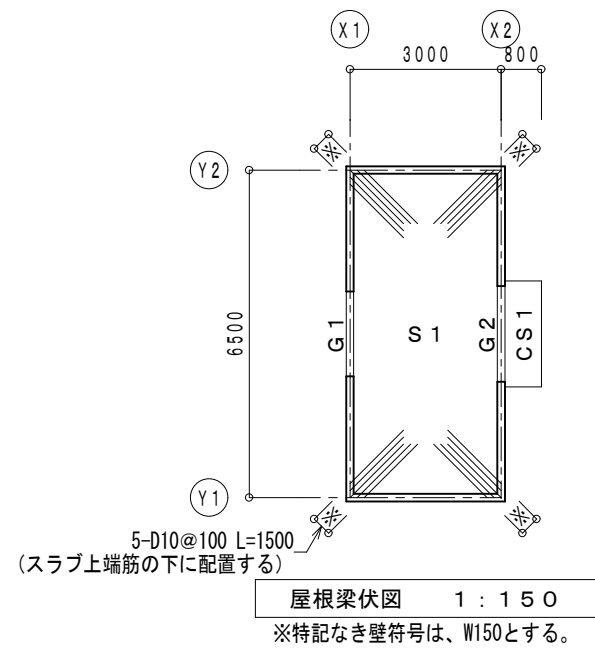
福平小学校プール新築その他本体工事

物品倉庫 構造設計標準仕様

NO. SCALE

S-15

鹿児島市建設局建築部建築課




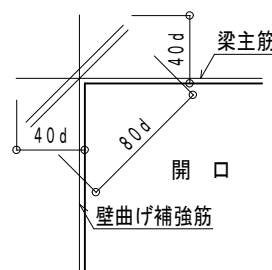
G I コラム-S 工法		
設計添加量 (試験練り結果による)		
設計基準強度	k N / m <sup>2</sup>	1000
コラム改良径	mm	900
掘削長	m	5.51
空掘長	m	0.85
改良長	m	4.66
本数	本	4
基礎符号		F1

※掘削長及び改良長は、トルク値の結果により変更する事がある。  
 ※設計地耐力  $f_e = 294.0 \text{ kN/m}^2$  (長期)



符 号	G 1	G 2	F G 1
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
B × D	150×450	150×510	200×600
上端筋	1-D13	1-D13	2-D16
下端筋	1-D13	1-D13	2-D16
S T P	D10@200	D10@200	D10@200
腹 筋	2-D10+1-D13	3-D10	2-D10

外部は厚20増しコンクリート打ちとする。  
内部は厚10増しコンクリート打ちとする。  
縦筋は平面配筋詳細図を優先する。

符号		W150	開口補強要領
断面			
壁厚		150	
配筋タイプ		シングル	
縦筋		D10@200	
横筋		D10@200	
開口補強	縦筋	1-D13	
	横筋	1-D13	
	斜め筋	1-D13+1-D10	

符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備 考
S 2 1	150 増打t=30	上端筋	D10D13@200	D10@250	ワイヤーメッシュ 6φ-150×150
		下端筋	D10@200	D10@250	
		上端筋			
		下端筋			

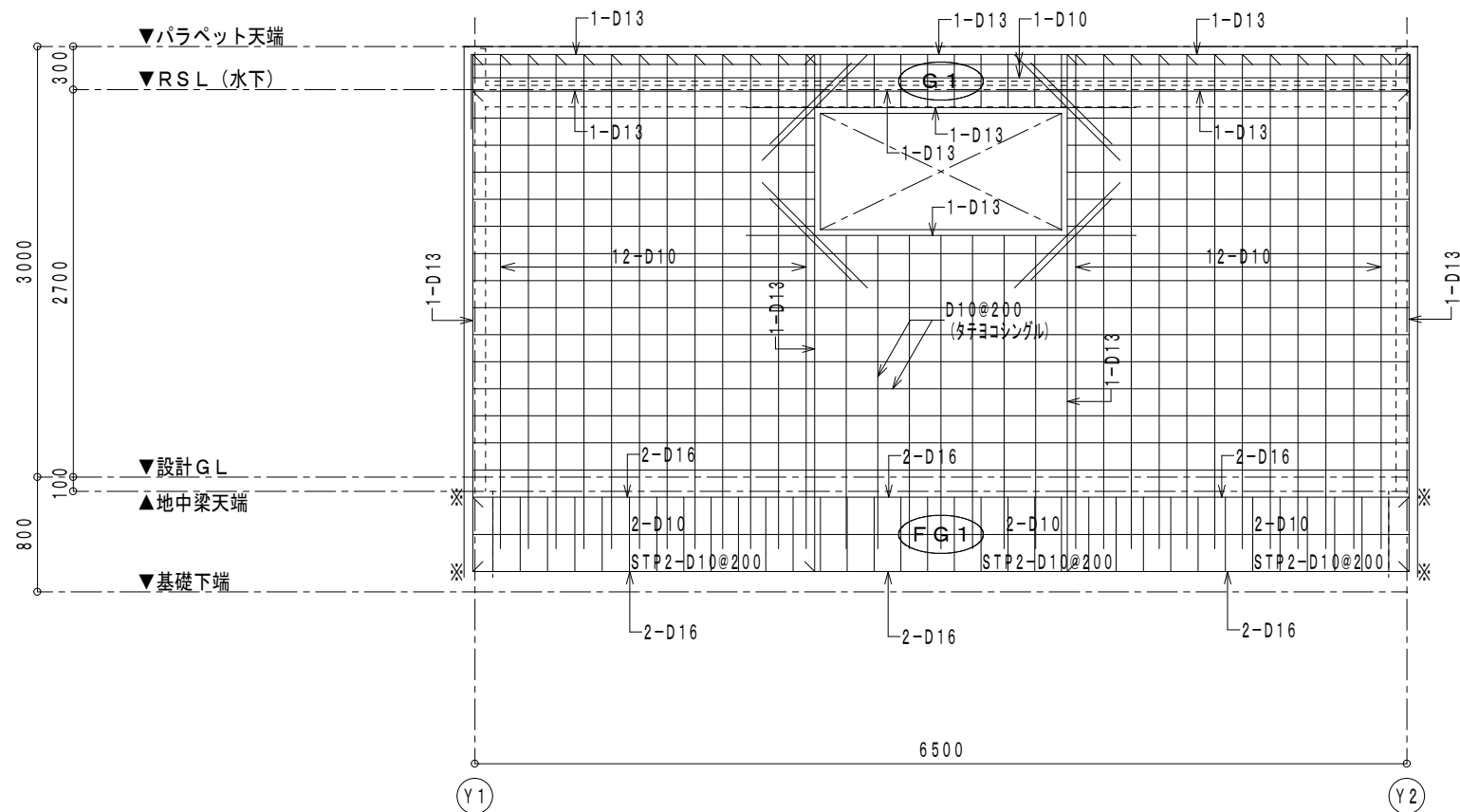
Figure 1: Cross-section diagram of a road surface structure. The diagram shows a multi-layered pavement structure. From top to bottom, the layers are: a concrete slab (土間コンクリート) with thickness  $t=150$ , a waterproofing polyethylene film (防湿ポリエチレンフィルム) with thickness  $t=0.15$ , a sand layer (敷砂) with thickness  $t=30$ , and a recycled crusher run (再生クラッシャーラン) with thickness  $t=60$ . A reinforcement bar (D10@200) is shown within the concrete slab. The total thickness of the structure is 600mm. The diagram also shows a cross-section of a road surface with a 30mm thick layer on top of the 600mm structure.

(株)アーキ・プラン  
一級建築士 第 84458 号  
古川 稔

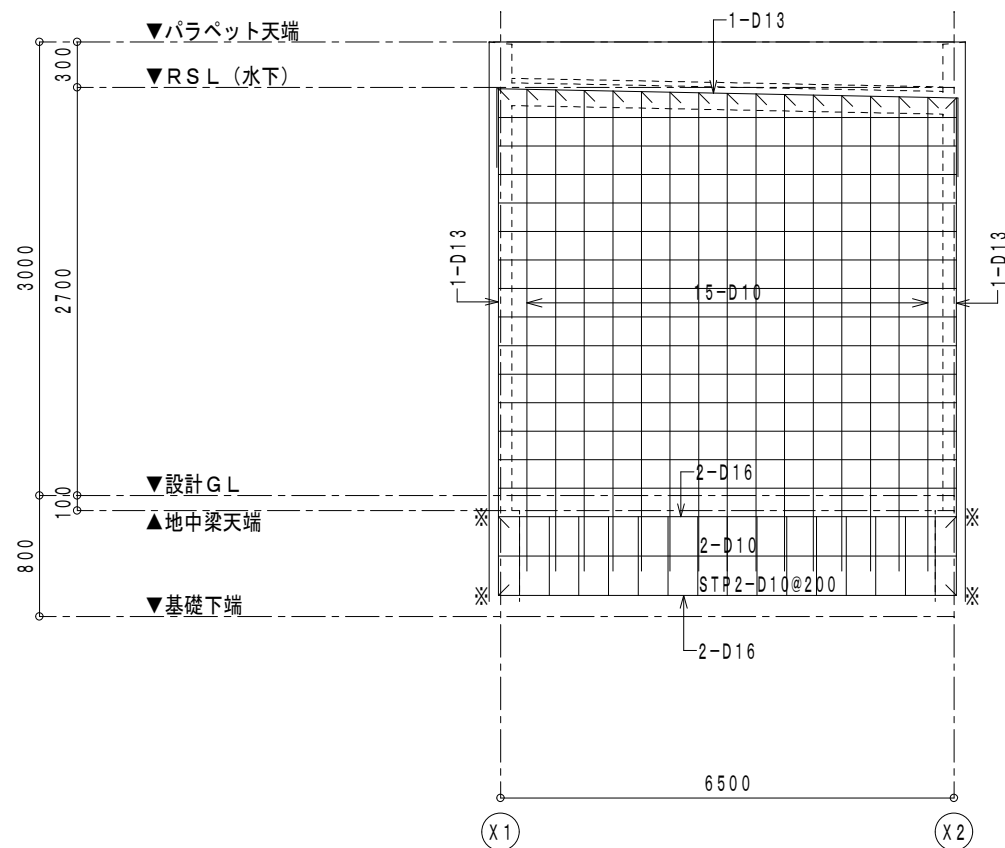
物品倉庫 基礎・梁・壁・スラブリスト、  
土間・庇配筋図

A3:1/60	
1/40	
1/30	

鹿兒島市建設局建築部建築課



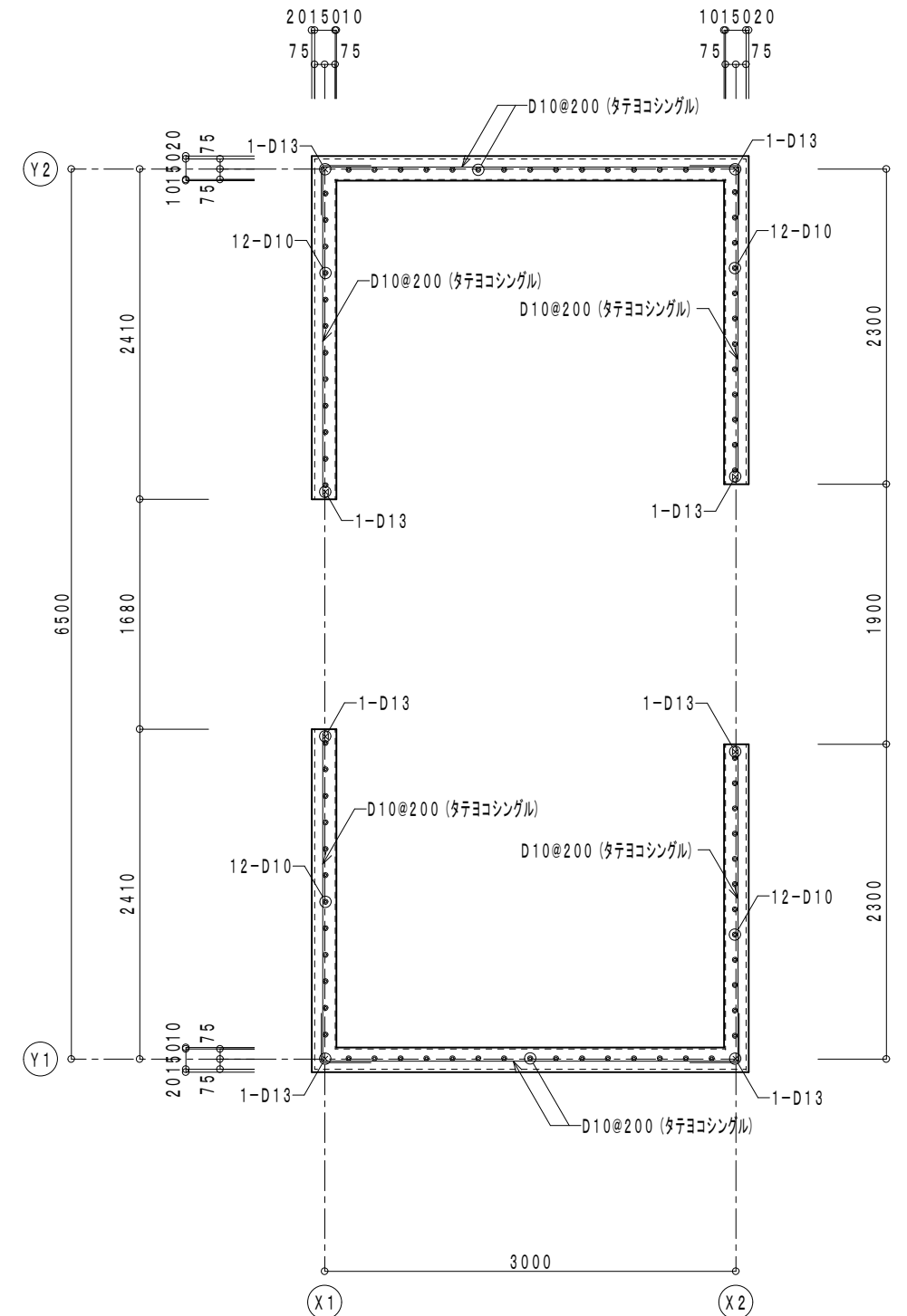
X 1 通架構配筋図 1 : 5 0



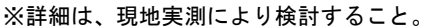
Y 1 通架構配筋図 1 : 5 0

特記事項

- ・特記無き壁は W150を示す。
- ・W150→D10@200 (タテヨコシングル) とする。
- ・外部は、厚20増しコンクリート打ちとする。
- ・内部は、厚10増しコンクリート打ちとする。
- ・巾止め筋は、D10-@1000以下とする。
- ・開口部斜め補強筋は、1-D13+1-D10 (L=80d) とする。
- ・※印部は、直交壁内35d水平アンカーする。



壁平面配筋図 1 : 5 0



※掘削長及び改良長は、トルク値の結果により変更する事がある。  
※設計地耐力  $f_e = 294.0 \text{ kN/m}^2$  (長期)

